

OLYMPUS[®]

Your Vision, Our Future

ENVIRONMENTAL REPORT 2004

オリンパス環境レポート 2004



会社の概要

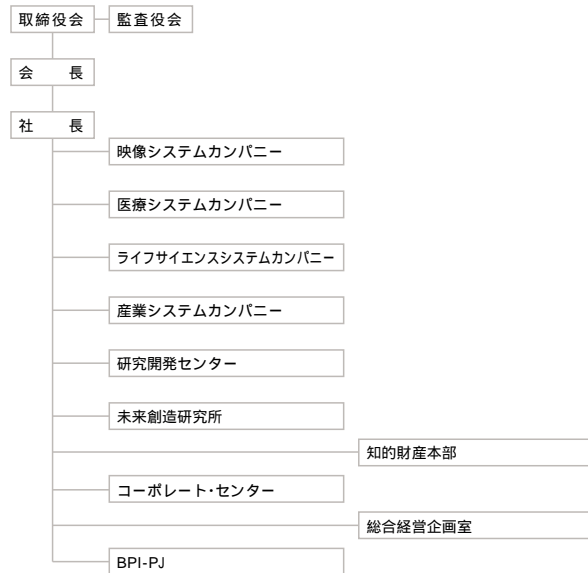
2004年3月31日現在

商号 オリンパス株式会社
 設立 1919年(大正8年)10月12日
 本社所在地 〒163-0914
 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス
 TEL: 03-3340-2111
 事業内容 医療・健康、映像・情報、工業関連機器の製造・販売
 デジタルカメラ、フィルムカメラ、録音機、光磁気(MO)
 ディスクドライブ、双眼鏡、消化器・外科・処置具・超音波
 分野の内視鏡関連機器、生物顕微鏡、分析機、ゲノム解
 析システム、情報機器、工業用内視鏡、工業顕微鏡、他
 資本金 40,832百万円
 従業員数連結 オリンパスグループ 28,857名
 従業員数単体 オリンパス(株) 5,470名
 売上高(連結) 633,622百万円(2003年度)
 売上高(単体) 425,184百万円(2003年度)

カンパニー制・概略組織図

2001年4月1日から、オリンパスは社内カンパニー制を導入しました。顧客ニーズへのスピーディな対応をめざすために、効率経営を追求し、事業部門の再編によるシナジー効果を期待した改革です。それにともなって、役員会などの組織も変更しました。成功の鍵は、社員一人ひとりの意識改革です。

組織図



本報告書の主要対象範囲

(国内生産事業場)

オリンパス(株) 技術開発センター(八王子)
 日の出工場
 伊那事業場
 辰野事業場

オリンパス(株)の生産関係会社 青森オリンパス(株)
 会津オリンパス(株)
 オリンパスオプトテクノロジー(株)
 ・本社
 ・大町事業所
 ・坂城事業所
 三島オリンパス(株)
 白河オリンパス(株)
 (株)岡谷オリンパス

対象期間: 2003年4月1日～2004年3月31日
 従業員数: 5,728名(2004年3月31日現在)
 (株)東京金属協和工場は2003年3月で解散

オリンパスグループ主要事業拠点

2004年3月31日現在

国内

オリンパス株式会社
 本社事務所
 技術開発センター(八王子)
 日の出工場
 伊那事業場
 辰野事業場
 (株)オリンパス総合サービス
 青森オリンパス(株)
 会津オリンパス(株)
 オリンパスオプトテクノロジー(株)本社
 オリンパスオプトテクノロジー(株)大町事業所
 オリンパスオプトテクノロジー(株)坂城事業所
 オリンパスオプトテクノロジー(株)八王子事業所
 オリンパスロジテックス(株)
 三島オリンパス(株)
 白河オリンパス(株)
 (株)岡谷オリンパス
 (株)オリンパスエンジニアリング
 オリンパスシステムズ(株)
 (株)ノバスジーン
 (株)オリンパスAVS
 (株)オリンパスメディカル エンジニアリング
 オリンパスリース(株)
 KSオリンパス(株)
 (株)オプノテック
 AOIテクノロジー(株)

開発
 製造
 販売
 サービス
 修理・保守
 リース
 業務支援
 物流
 部品調達
 システム開発
 ソフトウェア開発

アメリカ

Olympus America Inc.
 Olympus America de Mexico, S.A. de C.V.
 Olympus Latin America, Inc.
 Olympus Optical do Brasil, Ltda.
 Olympus Integrated Technologies America Inc.
 AOI Technology U.S. Inc.
 Olympus Industrial America, Inc.

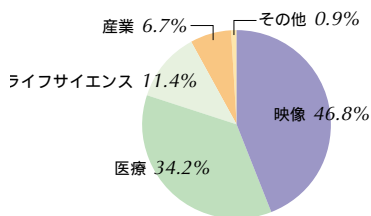
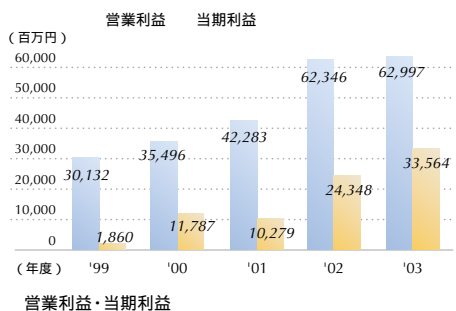
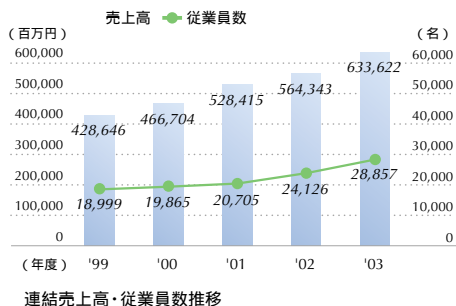
欧州

Olympus Europa GmbH
 Olympus UK Ltd. [Operating Company]
 KeyMed(Medical & Industrial Equipment)Limited
 KeyMed(Ireland)Ltd.
 Algram Group Ltd.
 Olympus Sverige AB
 Olympus Schweiz AG
 Olympus Austria Gesellschaft m.b.H.
 Olympus Deutschland GmbH
 Olympus Winter& Ibe GmbH
 Olympus Diagnostica GmbH
 Olympus Endo-Repair Europe GmbH
 Olympus Biosystems GmbH
 Olympus France S.A.
 Olympus d.o.o.
 Olympus d.o.o.za trgovinu
 Olympus C&S, Spol.s.r.o.
 Olympus Danmark A/S
 Olympus Italia S.R.L.
 Olympus Norge A/S
 Olympus Finland OY
 Olympus Estonia Oue
 Olympus Nederland B.V.
 Olympus Hungary Kft.
 Olympus Medical Care(Hungary)Kft. Medical Service Limited Liability Company.
 Olympus Polska Sp. z o.o.
 Olympus Endoterapia Sp. z o.o.
 Olympus Optical AB
 Olympus Optical Espana S.A.
 Olympus Service Facility Portugal Lda.
 Oneiros Technologias de Infoemacao, S.A.

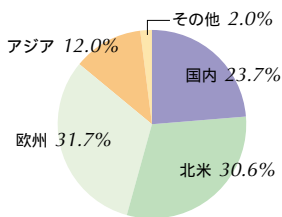
アジア、その他

Olympus Singapore Pte Ltd.
 Olympus Technologies Singapore Pte Ltd.
 Olympus Australia Pty Ltd.
 Olympus New Zealand Limited
 Olympus Asset Management Limited
 奧林巴斯(深セン)工業有限公司 [Olympus(Shenzhen)Industrial Ltd.]
 奧林巴斯(北京)科技有限公司 [Olympus Beijing Industry & Technology Limited]
 台湾奧林巴斯股份有限公司 [Olympus Taiwan Co., Ltd.]
 Olympus(Thailand)Co., Ltd.
 Olympus Korea Co., Ltd.
 ODNK Co.,Ltd.
 Olympus(Malaysia)Sdn. Bhd.
 Olympus Optical Technology Philippines, Inc.

オリンパスグループの主要データ



2003年度分野別連結売上高比率



2003年度地域別連結売上高比率

本報告書の概要

・「オリンパス環境レポート2004」は、国内外のオリンパスグループ全体を対象としていますが、環境負荷データは国内生産事業場を基本に集計しています。ただし、省エネルギーでのCO₂排出量と環境会計には中国深セン工場も含めた内容を記載しています。

・本年度の内容には以下のような特色があります。

- 1) オリンパスエコプロダクツ基準を設定し、具体的な環境配慮型製品を創出しました。
- 2) 廃棄物削減・リサイクル活動を推進し、国内の全主要開発・生産・物流拠点でゼロエミッションを達成しました。
- 3) 国内外の各事業場の特色ある取り組みをサイトレポートとしてまとめました。
- 4) 社会的な取り組みに新たに人事・教育のページを設け、サステナブルレポートとしての面を強化しました。

目次

環境マネジメント

3 オリンパスグループの経営理念と環境憲章

4 オリンパスの事業活動と環境影響

6 環境基本計画

8 環境会計

9 推進体制

10 環境マネジメントシステム運用状況

11 環境教育

製品への取り組み

12 環境配慮型製品の創出

13 オリンパスエコプロダクツ[1] SZX7/SZ61

14 オリンパスエコプロダクツ[2] IPLEX MX

15 オリンパスエコプロダクツ[3] E-1

16 環境技術開発の事例

17 製品包装・物流における環境配慮

18 グリーン調達

19 安全な化学物質への代替化

生産活動における取り組み

20 省エネルギー・省資源

22 廃棄物削減・リサイクル推進

24 化学物質管理

25 リスクマネジメント

社会的な取り組み

26 社会貢献

28 社会・環境コミュニケーション

30 安全・衛生

31 人事制度と育成

サイトレポート

32 国内・海外拠点の取り組み

40 外部からの表彰

41 オリンパス環境活動のあゆみ

ごあいさつ

企業経営は、社会と価値観を共有しながら、事業を通して新しい価値を提案することが大切です。オリンパスグループは、「Social IN(ソーシャル・イン)」を経営思想の原点としてCSR(Corporate Social Responsibility)・「企業の社会的責任」を果たすべく企業活動を実践してまいりました。

環境への取り組みは、このCSR活動の一環であるとともに、新しい価値の創造であると考えています。2003年度は、「02 環境基本計画」の2年目にあたり計画を大きく前進させました。「環境技術開発と製品への環境配慮」の取り組みでは、オリンパスエコプロダクツ基準に基づいた環境配慮型製品を市場導入いたしました。実体顕微鏡「SZX7/SZ61」、デジタル一眼レフカメラ「E-1」、ポータブル型工業用内視鏡「IPLEX MX」です。これらのエコプロダクツ製品は、環境負荷を低減するとともに、高機能・高性能を達成した製品です。

工場や事業場における「ゼロエミッション挑戦」も大きく前進しました。国内の開発・製造事業場のすべてにおいて「中間処理後の埋立量を総排出量の1%以下とする」オリンパスのゼロエミッション基準を達成いたしました。また、これらの事業場では、廃棄物の再資源化においても大きな改善が進みました。

「グループ統合環境マネジメント推進」では、オリンパスグループの環境方針の策定や社長環境方針を展開する「コーポレート環境推進機能」のISO14001の認証取得を行い、私みずから環境マネジメントシステムの最高責任者としての役割を果たしています。

企業の事業活動は、少なからず地球環境に負荷を与えるものですが、省エネルギー・省資源への取り組み、有害物質を排除した製品の創出、資源の再利用・再資源化など、まだまだ改善すべき領域は多くあります。「Your Vision, Our Future」というコーポレートスローガンを掲げて、さらに新しい価値創造に挑戦し、環境調和経営の実現をめざした企業活動を行ってまいります。

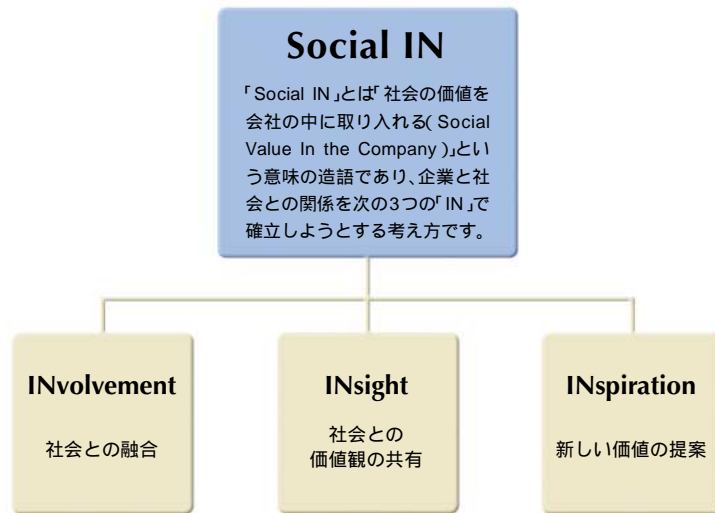


2004年6月

オリンパス株式会社

代表取締役社長 菊川 剛

オリンパスグループの 経営理念と環境憲章



Social INの実現

企業と社会との関係を3つの「IN」で確立することを目指します

オリンパスグループは、「Social IN(ソーシャル・イン)」を経営思想の原点に位置づけています。これは、生活者として社会と融合し、価値観を共有しながら、事業を通して新しい価値観を提案し、人々の健康と幸せな生活を実現することを意味します。「既存概念の打破による意識変革」と「顧客原点の行動」を行動の基本としています。

オリンパス環境憲章

オリンパスの環境問題に対する基本的な考え方です

オリンパスは、企業市民として環境問題に対する基本的な考え方を明示し、その具体的活動につなげるために、1992年8月にオリンパス環境憲章を制定しました。これは、全社環境委員会の審議を経て、経営会議で決定されたものです。

環境理念

オリンパスは人々の安全・健康と自然のいとなみを尊重し、環境に調和する技術の開発・事業活動を通して、持続的発展が可能な人間社会と健全な環境の実現に貢献する。

環境行動指針

すべての事業活動において、環境保全を優先し、組織的にまた一人ひとりが、熱意を持って取り組む。

1. 技術開発

安全で環境保全に配慮した商品や生産技術の開発を行う。またその成果を社会に公開・提供する。

2. 規範作成と評価

世界に先ずる自主基準・規範を整備し、開発・生産・販売などの各段階において環境への評価を行う。

3. 資源の保護

省資源・省エネルギー活動を徹底するとともに、廃棄物の回収・再資源化などのリサイクル活動を推進する。

4. 活動支援

行政の環境施策に協力するとともに、地域・国際社会の環境保全活動を理解し、積極的に参画・支援する。

5. 啓蒙と全員参加

環境保全について、広報・啓蒙活動を行い、一人ひとりが理解を深め、家庭・職場・社会において自主的に環境保全の活動に取り組む。

6. 推進体制

環境担当役員のもとに、環境保全推進の責任を明確にし、組織を整備して、内外の変化に適切に対応する。

オリンパスの事業活動と環境影響

オリンパスの活動が地球環境に与える影響を各事業活動の側面から把握することにより、その影響を抑える活動につなげていきたいと考えています。

開発・生産プロセスにおける主な環境影響

INPUT

エネルギー ▶P20	製品原材料・副資材	事務系資材 ▶P21
電力9,485万kWh	金属材料	コピー紙123t
重油3,254kl	...鋼材、アルミニウム、真ちゅう	その他ユーティリティ ▶P21
灯油245kl	光学ガラス	上水19万m ³
軽油72kl	プラスチック	地下水172万m ³
ガソリン44kl	...ABS、PC、ポリエチレン、ポリプロピレン	
都市ガス71万m ³	化学品	
LPG9万m ³	...酸類、アルカリ類、溶剤、塗料	
合計1,151TJ		
TJ(テラジュール)= 10 ¹² J		

事業活動



研究・開発 ▶



設計 ▶



生産 ▶

開発生産事業所	技術開発センター(八王子)	青森オリンパス(株)	オリンパスオプトテクノロジー(株)	三島オリンパス(株)
	日の出工場	会津オリンパス(株)	本社	白河オリンパス(株)
	伊那事業場		大町事業所	(株)岡谷オリンパス
	辰野事業場		坂城事業所	

OUTPUT

CO₂排出 ▶P20	PRTR指定物質の大気への排出 ▶P24	再資源化 ▶P22	廃棄物中間処理委託 ▶P22
電力分33,863t-CO ₂	トルエン6.0t	紙・ダンボール734t	紙くず110t
重油分9,014t-CO ₂	キシレン3.4t	プラスチック706t	汚泥28t
都市ガス分1,521t-CO ₂	エチレンオキシド0.8t	金属・ガラスくず510t	廃プラスチック18t
灯油分615t-CO ₂	ジクロロメタン0.3t	生ごみ・汚泥430t	廃アルカリ17t
LPG分561t-CO ₂	エチルベンゼン0.1t	廃酸・廃アルカリ399t	金属・ガラスくず16t
その他293t-CO ₂	その他0.3t	廃油235t	廃油7t
合計45,867t-CO ₂	合計10.9t	合計3,014t	廃酸6t
ボイラー大気汚染有害物質 ▶P25	水系への排出 ▶P25		その他3t
SO _x6t	BOD5.5t		合計205t
NO _x38t			

事業分野

映像・情報分野



デジタルカメラ



フィルムカメラ



ICレコーダー



MOドライブ

医療分野



電子内視鏡システム



超音波内視鏡システム



内視鏡下手術システム



内視鏡用処置具

ライフサイエンス分野



生物顕微鏡



血液分析機



ゲノム関連機器

産業分野



工業用顕微鏡



工業用内視鏡



液晶基板検査装置



物流 ▶



販売 ▶



サービス

OUTPUT

主な製品	▶P12
デジタルカメラ	1,376 t
フィルムカメラ	773 t
録音機	274 t
MOドライブ	103 t
内視鏡	776 t
顕微鏡	593 t
分析機	589 t
計測機	725 t
プリンタ	1,104 t
合計	6,313 t

包装材	▶P17
ダンボール	1,977t
紙	473t
プラスチック	320t
金属	1t
ガラス	2t
合計	2,773t

環境基本計画

オリンパスでは社長方針を基に、3年ごとに5年先を見据えた環境基本計画を策定しています。2003年度は、「02環境基本計画」の2年目として「エコプロダクト」、「エコファシリティ」、「エコマネジメント」のさらなる推進に取り組みました。

エコロジージビジョン21

環境ブランド力を向上させ
企業価値の最大化をめざす

環境経営優良企業の実現

基本方針

オリンパスは02環境基本計画において

プロダクト：全分野 環境配慮型製品の市場導入
ファシリティ：全事業場 ゼロエミッション挑戦
マネジメント：グループ統合 環境マネジメント推進
の3つのエコロジージ戦略展開により「環境調和経営」を推進する

目標

2004年度

- ・新製品の鉛フリーはんだ化
- ・新製品のLCA実施
- ・エコ硝材の新製品適用
- ・RoHS禁止物質の排除
- ・塩素系有機溶剤全廃
(トリクロロエチレン・ジクロロメタン)
- ・CO₂国内排出量40%削減
(2000年度比・売上高原単位)
- ・CO₂総排出量15%削減
(2000年度比・連結売上高原単位)
- ・環境効率経営の実施
- ・マテリアルフロー管理の基盤整備

[すでに達成した目標は除いています。また、新たに目標設定しました。]

重点施策

エコプロダクト

環境技術開発と製品への環境配慮

1. 製品評価手法の製品適用(LCA他)
製品アセスメント全製品実施、グリーン調達、長寿命化・安全性改善、タイプIIIラベル製品(製品環境情報提供)
2. 環境技術開発と製品適用
脱有害物質(鉛フリーはんだ、エコ硝材他)環境技術の新製品適用
3. 包装材3Rの展開(リデュース、リユース、リサイクル)
梱包方法改善(リターナブル、リサイクル容易化) 集配システム改革、運搬手段改革(モダリティシフト、適正車両化)

エコファシリティ

ゼロエミッションへの挑戦

1. 省エネ・省資源促進
効率的エネルギーシステムの導入(コージェネレーション、蓄熱式空調熱回収システム等)、生産用水の循環化拡大、レンズ・表面処理排水のクロードシステム
2. 廃棄物削減とリサイクル化
グリーン購入、再資源化・リターナブル、中間処理拡大(厨芥処理等)
3. 有害物質の排除、環境リスク低減
ピッチレス加工法導入、六価クロム化合物代替技術、脱シアン化、VOC削減、国内事業場土壌状況調査と対策、環境施設管理の充実

エコマネジメント

グループ統合環境マネジメント推進

1. 環境経営のグローバル展開
グループ全体へのISO14001(EMS)拡大、環境教育の充実、環境業績評価
2. 環境コミュニケーションの充実
環境会計、報告書、ホームページ、社会貢献、全社エコ展・社外エコ展出展

2003年度実績

エコプロダクト [環境技術開発と製品への環境配慮]

重点施策	目標	実績	自己評価	関連頁
製品評価手法の製品適用	・エコ製品導入推進	・分野別エコ製品基準を、顕微鏡・カメラ・産業の3分野で確立 ・実体顕微鏡、デジタル一眼レフカメラ、ポータブル型工業用内視鏡がオリンパスエコプロダクトに認定		p12-15
	・新グリーン調達運用	・グリーン調達基準を見直し、1月より国内外取引先への説明会を実施		p18
	・OLCA導入	・デジタル一眼レフカメラ「E-1」がデジタル一眼レフカメラで初めてエコライフ環境ラベル(タイプ 環境ラベル)に認定される		p15
環境技術開発と製品適用	・六価クロムフリーの新製品適用	・各種クロメート処理を検討中 亜鉛メッキ後で耐久性能に課題が残り、継続検討が必要		p15
	・鉛フリーはんだの新製品適用	・デジタル一眼レフカメラ「E-1」等で新製品に適用		p19
	・エコガラスの新製品適用	・全社エコガラス化率98.5%		
包装材3Rの展開	・包装材改善策策定と実施	・「E-1」個装箱で環境配慮型包装設計を実施 ・内視鏡キャリングケースのダンボール化、顕微鏡のフィルム包装による包装材削減を他の製品に水平展開した		p17

エコファシリティ [ゼロエミッションへの挑戦]

重点施策	目標	実績	自己評価	関連頁
省エネ・省資源促進	・国内CO2排出量、2000年度比6.4%削減	・国内事業場CO2排出量、2000年度比4%削減で未達 ・海外深セン(中国)を含めた環境効率(連結売上高/CO2排出量)は前年度比6%向上 ・国内及び中国工場の省エネアセスメントを実施		p20-21
廃棄物削減とリサイクル化	・主要事業場ゼロエミッション達成 ・廃棄物排出量2000年度比8%削減 ・リサイクル率80%以上	・国内全開発・生産・物流拠点でゼロエミッション達成 ・廃棄物排出量2000年度比16%削減 ・リサイクル率94%		p22-23
有害物質の排除、環境リスク低減	・塩素系有機溶剤、2004年度全廃 ・六価クロムの廃止 ・鉛フリーはんだの工程導入 ・環境リスク低減	・ジクロロメタン代替化に取り組み中 ・各事業場で活動を開始 ・辰野事業場「E-1」ラインで導入完了 ・岡谷事業所の土壌汚染改良、海外環境リスクアセスメントを実施		p19 p24 p25

エコマネジメント [グループ統合環境マネジメント推進]

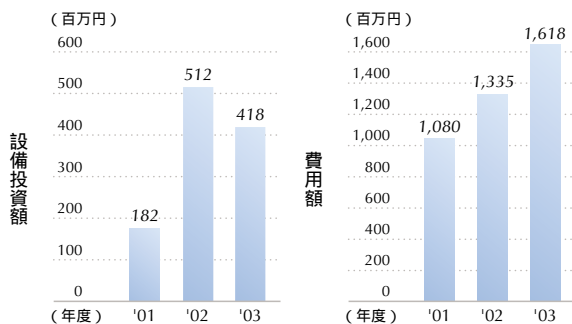
重点施策	目標	実績	自己評価	関連頁
環境経営のグローバル展開	・環境効率によるカンパニー評価 ・グループ全体へのISO14001認証拡大	・CO2排出量と売上高による効率評価を実施 ・05基本計画策定に向けた活動を開始 ・各部門で計画どおり取得(オリンパスロジテックス・ODI・全社環境推進機能・KSオリンパス)		p10
環境コミュニケーションの充実	・環境ホームページ、環境レポートの充実 ・社外エコ展への出展	・10月にホームページをリニューアル(HTML化) ・環境レポートは新たに中国語版を作成 ・エコプロダクト2003に初出展		p28-29

環境会計

オリンパスでは、環境保全コストと環境保全に伴う効果を定量的に把握する手段として、環境会計システムを1999年度から導入し、環境マネジメント推進に活用しています。

2003年度環境コストと効果

2003年度環境コストを、環境省「環境会計ガイドライン(2002年版)」に沿って集計しました。コスト集計の対象は、国内生産事業場に海外最大拠点である中国の深セン工場を加えたものです。2003年度の費用額は16.2億円で前年度比21%の増加、設備投資額は4.2億円で前年度比18%の減少となりました。2003年度の主な設備投資は、高効率トランスや省エネルギー空調機の導入など、地球温暖化防止に向けたものが全体の50%を占めます。費用については、地球温暖化防止、廃棄物削減に加えて、製品回収、鉛フリー技術開発などが増加しています。また、2002年に行った土壌調査で汚染が判明した岡谷事



環境保全コストの推移

業所の土壌汚染改良の費用が発生しました。

また環境保全に伴う物量効果は、CO₂排出量では前年度を上回りましたが、廃棄物中間処理委託量は前年度比67%削減となりました。これは国内事業場でゼロエミッションを推進した結果です。

環境保全に伴う経済効果は、エネルギー費用が17.5億円と前年度比3%削減しました。廃棄物中間処理委託費用はゼロエミッション推進に伴い、1,500万円と前年度比65%の削減となりました。

単位：t

分類	環境負荷指標	2002年度	2003年度	前年度からの増減	増減割合
事業場エリア内効果	CO ₂ 排出量	64,263	66,291	2,028	3%
	廃棄物中間処理委託量	963	315	-648	-67%
	コピー紙購入量	133	127	-6	-5%

環境保全に伴う物量効果

単位：百万円

分類	効果の内容	2002年度	2003年度	前年度からの増減	増減割合
費用削減	エネルギー費用	1,800	1,753	-47	-3%
	廃棄物中間処理委託費用	43	15	-28	-65%
	コピー紙購入費用	21	19	-2	-10%
収入	リサイクルによる有価物売却収入	16	20	4	25%

環境保全に伴う経済効果

単位：百万円

分類	主な取り組み内容	主な関連頁	設備投資額			費用額			
			2001年度	2002年度	2003年度	2001年度	2002年度	2003年度	
事業場エリア内コスト	公害防止コスト	地下タンクの地上化	p25	59	105	60	226	364	187
	地球環境保全コスト	地球温暖化防止に向けた省エネルギー機器の導入(高効率トランス他)	p20-21	57	353	211	22	121	302
	資源循環コスト	廃棄物削減・リサイクル推進(廃液回収装置、リサイクル費用他)	p22-23	46	14	51	151	280	243
上・下流コスト	製品回収(内視鏡フィルムリユース)	p22-23	0	0	19	13	43	109	
管理活動コスト	環境マネジメントシステムの管理・運用	p09-11 p32-39	14	40	0	257	292	290	
研究開発コスト	製品環境配慮技術開発(鉛フリー技術開発等)	p12-16	0	0	77	316	225	413	
社会活動コスト	構内整備・緑化		6	0	0	93	9	1	
環境損傷対応コスト	岡谷事業所の土壌汚染改良	p25	0	0	0	2	1	73	
合計				182	512	418	1,080	1,335	1,618

対象範囲：オリンパス(株)および国内の生産関連会社。ただし2002年度以降は深セン(中国)を含む 対象期間：各年度とも4月1日～3月31日

環境保全コスト

推進体制

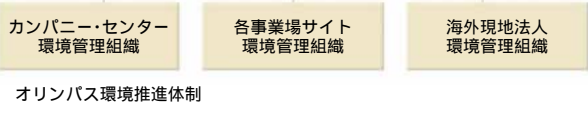
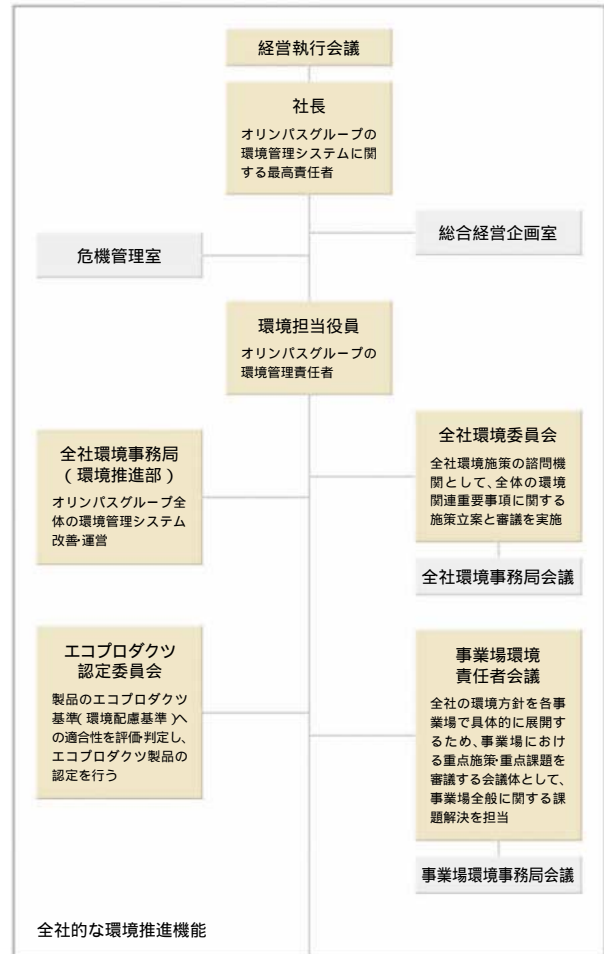
オリンパスは、全社的な環境活動推進体制をさらに強化するために、この全社推進体制に対して環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得しました。

推進体制

オリンパスでは、社長を最高責任者として、環境活動の全社推進に取り組んでいます。全社環境推進体制は、環境担当役員、総合経営企画室、危機管理室をはじめ、全社環境委員会、事業場長により構成された事業場環境責任者会議等の委員会組織と全社環境事務局から構成されています。また、2003年度から「オリンパスエコプロダクツ」(12ページ参照)を認定する認定委員会が設置されています。

この全社環境推進体制は、各カンパニー・センターの環境取り組み、各事業場の環境取り組みに対して経営トップ方針の展開をダイレクトに推進しています。このような全社環境活動推進体制に対応して、カンパニー・センターの環境管理組織、各事業場の環境管理組織が構築されています。また、海外現地法人でもそれぞれのビジネスセンターで環境管理組織が構築されています。

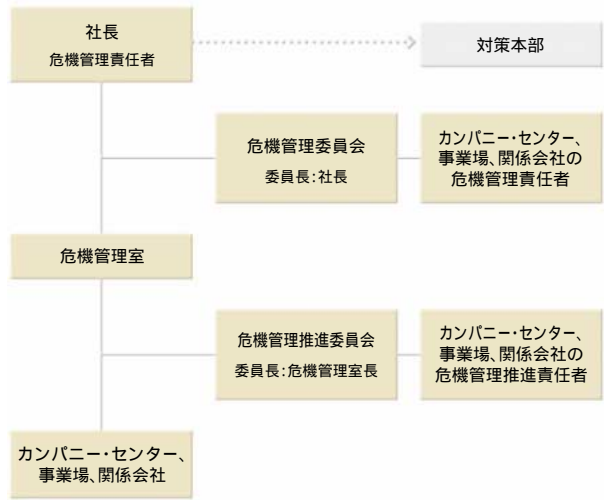
この全社環境推進体制は、オリンパスグループの中期環境計画、年度環境方針の策定などオリンパスグループの環境推進中枢機能です。オリンパスは2003年度に、この全社的な環境推進機能(右図枠線内)に対してISO14001の認証を取得しました(10ページ参照)。



オリンパス環境推進体制

危機管理体制

企業による経済活動の広がりや、社会システムや意識の変化により、予期せぬ危機に遭遇する機会が増加しています。そのためオリンパスでは、社長を危機管理責任者とし、全社的な立場から危機情報を一元管理する危機管理規定を定めて、危機の発生防止と早期収拾を図っています。またこの規定は環境リスクマネジメントにも適用し、環境保全に取り組んでいます(25ページ参照)。



オリンパス危機管理体制

環境マネジメントシステム運用状況

オリンパスグループでは、ISO14001環境マネジメントシステムを環境経営推進のための基本的な手段ととらえ、2003年度はグループ内での導入拡大をさらに進めました。

ISO14001認証取得状況

生産事業場の伊那事業場が、グループとして初めてISO14001認証を取得し、これに続いて開発・生産事業場、海外生産拠点がISO14001環境マネジメントシステムを導入してきました。国内の主要開発・生産事業場は、1999年度までにISO14001の認証を取得し、すでに10事業場が更新をしました。

2003年度は、国内で新たにオリンパスロジテックス、販売系列のKSオリンパスが認証を取得したほか、オリンパスの全社的な環境推進機能が認証を取得しました。各事業場では環境マネジメントシステムによる改善を通して、製品への環境配慮、省エネルギー、廃棄物削減などで成果をあげています。

海外の生産関係会社でも、中国のOlympus (Shenzhen) Industrial Ltd(深セン工場)、ドイツのOlympus Winter & Ibe GmbH (OWI)、英国のKeyMed (Medical & Industrial Equipment) Limitedがすでに認証を取得しています。2003年度は、Olympus Diagnostica GmbH (Irish Branch) (ODI) が新たに認証を取得しました。

全社環境推進機能のISO14001認証取得

全社環境推進機能のISO14001認証取得は、社長による経営層の見直しを強化し、中期環境計画・年度環境方針の推進におけるPlan-Do-Check-Actionのレベル改革に反映しました。また、危機管理室を含めた環境リスク管理のしくみを構築し、環境マネジメントシステムに組み込みました。従来、ISO14001は事業場単位での取得が中心でしたが、「このような全社推進機能の認証取得はユニークであり、全社的な環境システムの推進において有効な手段になる」と、認証機関よりコメントをいただきました。



菊川社長(左から2人目)も参加した審査のインタビュー

● KSオリンパス(株)のISO14001認証取得

KSオリンパスはオリンパスの医療用内視鏡、顕微鏡製品、工業機器、血液分析機などの国内販売代理店で、本社を含め全国に24の拠があります。2003年6月に社長を中心とした環境活動推進委員会を発足し、トップダウンで活動を進めた結果、全拠点・全従業員を対象とする環境マネジメントシステムを構築できました。KSオリンパスの認証取得は、オリンパスグループ販売部門としては初めてで、またこれだけ多くの拠点が同時に認証取得したのも初めての事例です。



KSオリンパス 川崎社長と認証書

● Olympus Diagnostica GmbH (Irish Branch) (ODI) のISO14001認証取得

ODIは、特殊な試薬を製造するため約400種の原材料を扱っており、こういった原材料のマネジメントが重要課題となっています。継続的に改善をしていくために、廃棄物業者の選定・統合、化学物質保管タンク・パイプの地上化、製品安全データマネジメントプロセスの見直し、化学物質リスクアセスメントを実施しています。

ISO14001認証機関からは「専門知識のあるスタッフと、環境マネジメントを進める核となる従業員の熱意・コミットメントに感銘しました。ODIには環境マネジメントシステムを効率的に実施する基盤があります。環境パフォーマンスを継続的に改善し、持続的発展につながる包括的な環境目的・目標とプログラムが確立されています」とのコメントをいただきました。



ODIの認証書と関係者

事業場	所在地	認証取得年月
伊那事業場	長野県伊那市	1997年2月
辰野事業場 / (株)岡谷オリンパス	長野県上伊那郡辰野町	1998年2月
日の出工場	東京都西多摩郡日の出町	1998年7月
会津オリンパス(株) / (株)オプノテック	福島県会津若松市	1998年10月
白河オリンパス(株)	福島県西白河郡西郷村	1998年10月
青森オリンパス(株)	青森県黒石市	1998年11月
オリンパスオプトテクノロジー(株) 坂城事業所	長野県埴科郡坂城町	1998年12月
三島オリンパス(株)	静岡県駿東郡長泉町	1999年6月
Olympus (Shenzhen) Industrial Ltd.	中国・深セン市	1999年9月
技術開発センター(八王子)	東京都八王子市	2000年3月
Olympus Winter & Ibe GmbH	ドイツ・ハンブルグ市	2001年5月
KeyMed (Medical & Industrial Equipment) Limited	イギリス・サウスエンドオンシー市	2002年3月
オリンパスロジテックス(株)	神奈川県川崎市	2003年11月
オリンパス(株) 全社環境推進機能	東京都新宿区西新宿 東京都八王子市	2004年1月
Olympus Diagnostica GmbH (Irish Branch)	アイルランド・クレア県	2004年1月
KSオリンパス(株)	東京都文京区本郷	2004年3月

オリンパスグループのISO14001認証取得状況(2004年3月末現在)

環境教育

持続可能な社会の構築に向けて環境保全活動を行うためには、従業員一人ひとりの環境意識を高めることが重要です。オリンパスでは、新入社員から経営層にいたるまで、さまざまな環境教育・啓発活動を実施しています。

環境教育体系

オリンパスでは、国内、海外を問わず、各対象者や部署、事業場の役割に合った教育を実施しています。その内容は、人事部人材開発センターと環境推進部が中心となって行う全社教育、事業場が主体となって行う事業場教育、外部教育機関による教育など、網羅的なものとなっています。

全社教育・事業場教育

全社的な教育コースとして、1997年より内部監査員養成講座を年2回以上開催しています。講座開始から6年が経過し、講座回数24回、受講者数は526名となりました。

社内報には環境関連のトピックを扱う記事「環境経営」を連載し、従業員への啓発活動を行っています。

また、各事業場では、事業場での企業活動に合わせた環境教育を実施しています。



内部監査員養成講座



社内報

オリンパスエコフォーラム

2002年に引き続き、技術開発センターにおいて、2003年9月10,11日の2日間にわたり海外および国内事業場における環境活動内容のパネル展示、報告会、外部講師を招いての講演会を開催しました。また、パネル展示の優秀事例には社内表彰を行いました。



海外事業場報告会



外部講師による講演会

海外教育活動

環境問題は地球規模で起こる問題です。オリンパスでは海外の企業活動の場でも環境教育・啓発活動を行っています。

Olympus America Inc.では、イントラネットを利用することで情報を共有し、従業員の環境意識の向上を図っています。

また、KeyMed (英国)では、入社時に配布する会社案内の小冊子に環境のページを設け、従業員の環境教育を推進しています。



OAIのイントラネット画面



KeyMed会社案内

環境関連資格者

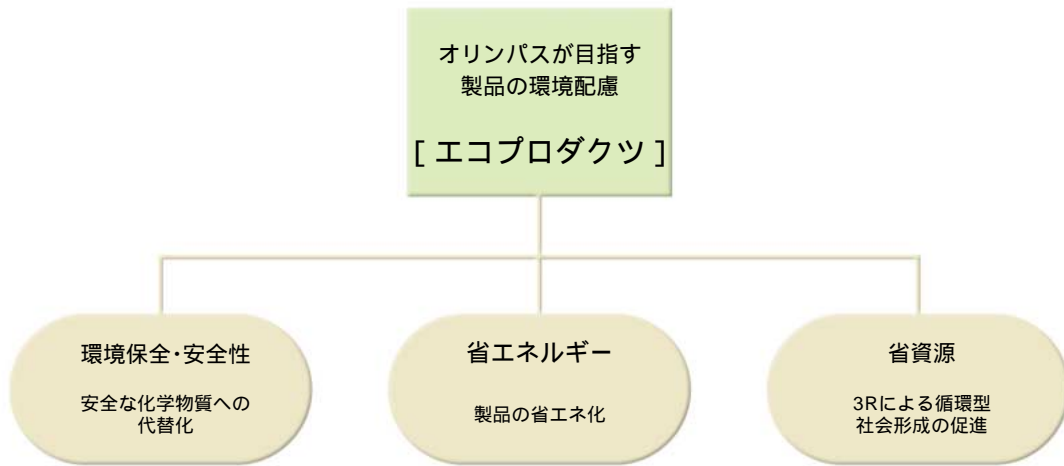
各事業場は、環境および労働安全衛生関係の法的資格者を充足するよう、社内基準を設けて計画的に育成しています。

資格	実際の人数	社内基準	法定人数	
公害防止管理者	大気	35	16	2
	水質	95	29	12
	騒音	17	5	0
	振動	15	3	0
公害防止主任管理者	1	0	0	
特別管理産業廃棄物管理責任者	58	13	13	

環境関連資格者数

環境配慮型製品の創出

オリンパスは、新しい価値創造をめざす「環境配慮型製品の姿」を定め、資材の調達から生産・物流・お客さまの製品使用・サービス・廃棄までを踏まえたライフサイクル全体における環境負荷を低減できるように、製品開発を進めています。



エコプロダクツ概念図

① オリンパスエコプロダクツ

2003年度は、新たに設けたオリンパスエコプロダクツ基準(環境配慮設計基準)に基づいた製品「オリンパスエコプロダクツ」の創出に取り組みました。

オリンパスエコプロダクツ基準には、「環境配慮型製品の姿」に掲げた「安全な化学物質への代替化」「製品の省エネ化」「3Rによる循環型社会形成の促進」、また製品アセスメントシステムを充実し製品の環境情報を公開するなど、オリンパス独自の製品環境主張項目を盛り込んでいます。

この基準を満たした製品を「オリンパスエコプロダクツ」と定義し、オリンパスエコプロダクツ認定委員会が審査、環境担当役員が承認します。承認された製品にはオリンパス

エコプロダクツマーク^{※1)}が与えられ、製品環境情報をカタログやオリンパスホームページで公開します。

2003年度には、オリンパスエコプロダクツ基準をクリアした環境配慮型製品の市場投入がスタートしました。

定義	基準
環境保全・安全性	<ul style="list-style-type: none"> 製品への使用禁止物質 / 制限物質 使用時の安全性向上
省エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 使用時消費電力の削減
省資源	<ul style="list-style-type: none"> 軽薄短小化 再資源可能化率 分別性 回収 / リサイクル性 表示 使用時の省資源 製造時の省資源 長寿命化 アップグレード
環境情報公開	<ul style="list-style-type: none"> 環境影響評価 / 情報提供

オリンパスエコプロダクツ基準

オリンパスエコプロダクツマーク



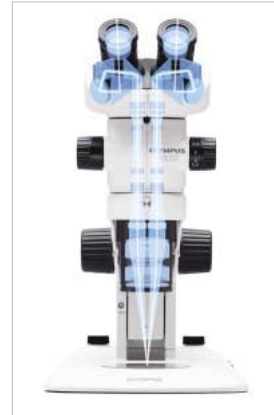
※1)
 オリンパス環境ラベル「オリンパスエコプロダクツマーク」は、タイプ エコラベル製品として、オリンパスが独自に定めた自己主張による環境配慮型製品の認証・登録マークです。

オリンパスエコプロダクツ[1]

構造解析設計を実施することで軽量化と高剛性を実現し、省資源化を進めました。

● オリンパスエコプロダクツ認定製品：
実体顕微鏡「SZX7 / SZ61」

「SZX7 / SZ61」は、従来製品のライフサイクルにわたる環境影響評価(LCA)結果から商品企画・開発目標を定め、CAE(Computer Aided Engineering)による軽量化と高剛性を両立したスリムでコンパクトなボディ設計、徹底した分離・分解性の環境配慮設計を追求し、オリンパスエコプロダクツ第一号認定製品として市場導入いたしました。



ガリレオ光学系(SZX7)



グリーンウ光学系(SZ61)

エコプロダクツとしての主な特徴

構造解析設計で
軽量化と高剛性を実現

3D-CADにより、支柱などの基幹部品の剛性解析と部品形状の最適化設計を実施し、軽量かつ高剛性なデザイン化により製品質量、部品点数を削減し省資源化を図りました。



CAEによるボディの構造解析設計シミュレーションイメージ図



SZX7



SZ61

光学系に
鉛フリーガラス使用

レンズ・プリズムなど光学ガラスには、すべて鉛フリーガラスを使用しています。

接着固定を廃止し
分離・分解性を向上

光学レンズ枠の位置決め調整と固定のための接着を廃止し、製品の分離・分解性を向上しました。

● アクセサリーの環境配慮設計

照明光源に白色LEDを使用して、消費電力1/6、12倍の長寿命(従来製品対比)でコンパクトな落射・透過タイプの照明架台(1)を開発し、アクセサリーの省電力化を進めました。

1) 照明架台はエコプロダクツ認定対象外です。



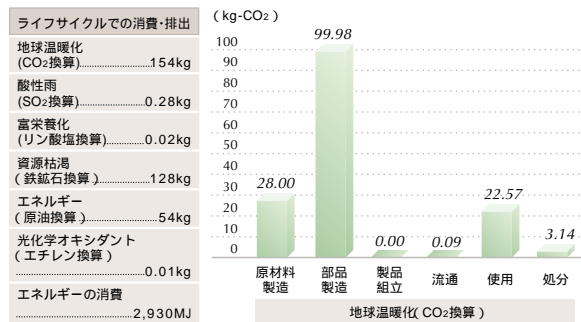
白色LED照明ユニット

オリンパスエコプロダクツ[2]

小型・軽量化と省電力化を進めて操作性の大幅な向上を実現しました。

● オリンパスエコプロダクツ認定製品： 工業用ビデオスコープ(内視鏡)「IPLEX MX」

「IPLEX MX」は、高所・狭所での作業が多い「フィールドメンテナンス」向けの観察装置として、検査現場で持ち運びながら利用できるよう、操作性の向上、小型・軽量化と省電力化を図り、オリンパスエコプロダクツ認定製品として市場導入いたしました。



IPLEX MXのLCA

エコプロダクツとしての主な特徴



光源の白色LED化と新開発リチウムイオンバッテリーによる省電力・長寿命化

工業用ビデオスコープとして初の白色LEDを照明用光源に使用した高輝度低消費電力照明と新開発の大容量リチウムイオンバッテリーによりフィールドメンテナンスでの長時間駆動を可能にしました。消費電力は従来光源の約1/10と省電力化を図るとともに、光源・バッテリーの長寿命化も実現しました。

携帯性の追求による
小型・軽量化

「IPLEX」シリーズは、3世代に渡り3R設計を追求。スコープ・本体ユニットのオールインパッケージ化を図り、本体部分を体積比で初代IPLEXの約1/10まで小型化、重量も前機種との約1/5の4.6kgに軽量化し、省資源化を図りました。

● オリンパスエコプロダクツ認証システムをスタート

2002年度に制定した自己宣言型の環境配慮型製品の設計基準に基づき、同基準の条件を満たした製品に適用するオリンパスエコプロダクツの社内認定制度の運用が、2003年度からスタートしました。

全社環境事務局が認定の一次審査を行い、申請された製品の開発の経過、製品カテゴリー別の環境配慮型製品設計基準の達成度を審査します。2003年度の認定審査は3件でした。

● オリンパスLCA(OLCA)による製品の環境影響評価

エコプロダクツの創出とエコマネジメントの推進には、環境負荷の定量評価ツールがキーとなります。この定量評価をしきみとして組み込むために、生産技術部門では使いやすいLCAツールをOLCA(オリンパスのLCA)として開発し、開発者の教育に取り組みんできました。



OLCA社内教育風景

オリンパスエコプロダクツ[3]

鉛フリーはんだの大幅な採用と鉛フリーガラスによる環境配慮を進めました。
また、デジタル一眼レフカメラで、初めて「エコリーフ」を取得しました。

● オリンパスエコプロダクツ認定製品：
レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ「E-1」

オリンパス「E-1」^{※1)}は、4/3型の撮像素子によるレンズ交換式デジタル一眼レフカメラとして、省エネルギー・省資源を推進しています。オリンパスはこの新システム「フォーサーズシステム」(16ページ参照)を提唱しました。

※1)
オリンパスエコプロダクツの認定はボディのみです。

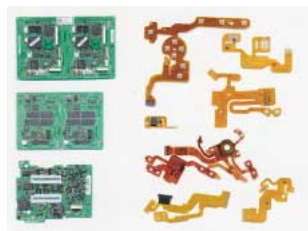


鉛フリーガラス化したズイコーレンズ群

エコプロダクツとしての主な特徴

鉛フリーはんだ使用

主要な電気実装基板にすず・亜鉛系の鉛フリーはんだを採用しました。今後は、実装部品の耐熱信頼性により、すず・銀・銅系の鉛フリーはんだと使い分けをしていきます。



鉛フリー実装基板



光学系に鉛フリーガラス使用

レンズ・プリズムなど、光学ガラスにはすべて鉛フリーガラスを使用しています。

液晶バックライトの水銀レス化

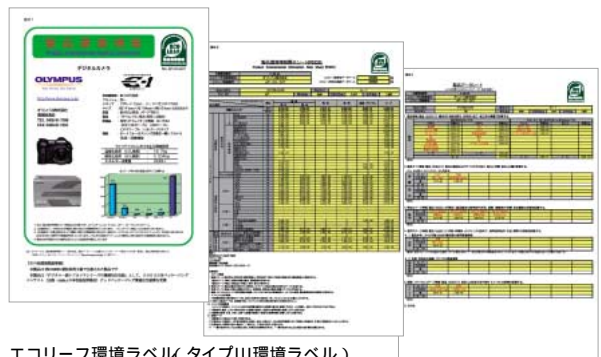
バックライトに白色LEDを使用し、液晶モニターの水銀を排除しています。

電源の二次電池化による省資源

充電が約500回繰り返し可能な省資源型リチウムイオン充電電池を採用しています。

● LCAによる環境影響評価を実施しデータを公開

エコリーフは、経済産業省の外郭団体、社団法人産業環境管理協会(JEMAI : <http://www.jemai.or.jp>)が運営する製品環境情報の開示システムで、製品の環境負荷をLCAに基づいて算出し、定量データを公開する国際規格タイプIII環境ラベルに沿ったものです。お客さまは、製品の環境配慮をこのデータで定量的に評価することができます。オリンパス「E-1」は、レンズ交換式デジタル一眼レフカメラとしては初めて、エコリーフ環境ラベル(タイプIII環境ラベル)の認定を取得しました。 ※2)



エコリーフ環境ラベル(タイプIII環境ラベル)

※2)
本体および同梱付帯品です。別売の交換レンズ、アクセサリ等は含まれません。

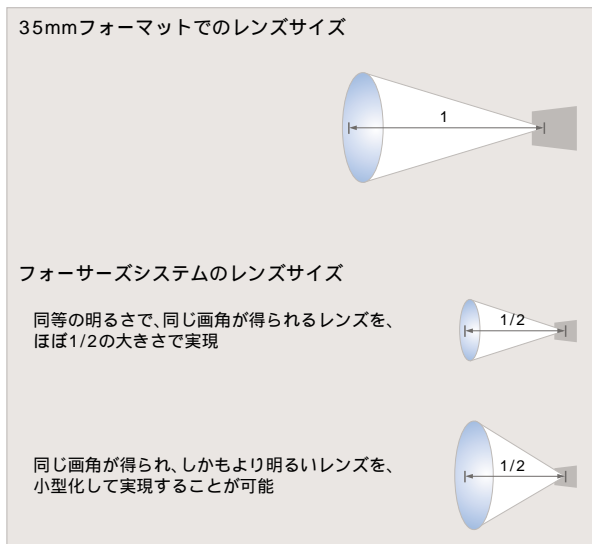
環境技術開発の事例

オリンパスでは、製品のライフサイクルを通して環境に与える影響を極小化する製品・製造技術の開発や利用技術の積極的な導入に取り組んでいます。

レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ「E-1」の新規格“フォーサーズシステム”

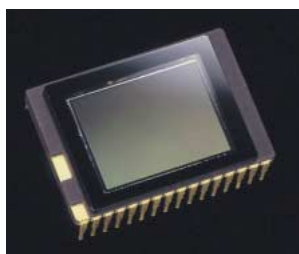
機動性・35mmフィルムの画質凌駕・電力の削減を実現するCCDサイズとして、4/3型のレンズ交換式デジタル一眼レフカメラの新規格を提唱しました。

フォーサーズシステムの撮像素子は、面積で35mmフィルムの約4分の1。省電力化とともに、カメラボディはもちろん、交換レンズの小型化も可能になり、省資源化に寄与します。たとえば、35mmカメラにおける600mmの望遠効果が、フォーサーズシステムでは300mmのレンズで得られます。



フォーサーズシステムのレンズサイズイメージ図

一般にフルフレーム型CCDはインターライン型に比べ、1画素あたり、約2倍の情報量を持つことが可能です。「E-1」の撮像素子には、静止画像専用開発されたフルフレーム型CCDを採用しています。大きな受光部によりフルフレームならではの豊かな階調が得られ、4/3型で高画質を実現することを可能としました。



「フォーサーズシステム」ロゴマーク 4/3型CCD

フォーサーズシステム規格は、「TIPA」ヨーロッパ・フォト・アンド・イメージングアワード2003-2004の「イノヴェイティブ・テクノロジー部門最優秀賞」を受賞しました。

「1」

TIPAは、ヨーロッパ12カ国を代表する31誌のカメラ・映像関連専門誌の代表によって構成される団体で、毎年、映像関連製品において優秀な製品や技術を選出しています。



製品開発段階でのものづくりを支える試作技術“モールドRPシステム”

製品には、たくさんのプラスチック成形部品が使われています。これらの部品は、製品開発の初期の段階では、プラスチックブロックからの削り出しや簡易金型で成形した部品で機能を評価し、その結果が製品設計と生産用金型設計に反映されます。しかし、生産品に近い評価のためには、生産用金型での試作と修正を繰り返しながらの検討・対策が必要でした。

「モールドRP(ラピッドプロトタイピング)システム」は、三次元設計(3D-CAD)システムによる設計支援とともに、源流段階で生産品と同等品質の部品を用いた機能評価のできる新たなプラスチック成形加工技術で、2003年度は22型が試作されました。部品強度の評価ができない削り加工、寸法精度が1桁悪い従来の簡易金型の欠点を解決し、リードタイムは1.5~2カ月を要する生産型に比べ、9.5~14日に短縮でき、これまで生産準備の段階で発生していた問題を早期に発見・解消できるようになりました。開発試作検証期間の短縮とその間に費やされる資源やエネルギーの削減に寄与する技術として、適用の拡大とさらなる技術開発に取り組んでいます。



モールドRP型



カメラのモールドRP成形部品

製品包装・物流における環境配慮

製品包装材料使用量の削減や再生資源の利用、包装の小型化による製品包装・物流の環境負荷の低減を図っています。また、オリンパスグループ全体の物流拠点を統合して、物流にともなう環境負荷の低減を進めています。

製品包装の改善

レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ「E-1」の個装箱と緩衝材に、ダンボール組み立て式の包装材料「ワンピースボックス」を採用し、単一素材化と省資源化、さらには加工工程の削減と簡略な個装作業への改善によって、省エネルギーにも寄与する新たな環境配慮包装設計を導入しました。このワンピースボックスは、2003日本パッケージングコンテスト(日本包装技術協会主催)において「グッドパッケージング賞 適正包装賞」を受賞しました。



ボディ・レンズのワンピースボックス製品包装



日本パッケージングコンテスト受賞盾・表彰状

物流包装の改善

部品の輸送包装は、中国工場と国内工場間での輸送容器を5年前よりリターナブル化しています。それ以前は輸送容器にダンボールを使用し現地で大量廃棄していましたが、繰り返し使用できるポリプロピレン(PP)製のプラスチックダンボール(ブラダン)に替えて、ダンボール廃棄物の削減を図ってきました。

2003年度は、ブラダンの更新時期に合わせた物流包装の3Rに取り組み、包装設計のLCAと物流現場からの改善ニーズを反映した、新たな部品輸送容器への切り替えを開始しました。

新容器は、上蓋(真空成形品)と、分離できる中枠(ブラダン)・下蓋(射出成形品)のスリーピース構造になっています。この設計変更により、従来比で約30%の軽量化を図るとともに、更新によって発生する廃棄ブラダンは下蓋の成形材料として再利用し省資源化を図りました。また、従来のブラダンは、裁断面が空洞構造のために水洗いができず、ゴミ・ケバ・汚れは布で拭き取っていましたが、このためたいへんな工数がかかっていましたが、新容器は下蓋と

中枠を分離、中枠のブラダン端面には目潰しを施し、水が入り込まない構造にして温湯洗浄を可能にしました。輸送容器に貼られる現品票のラベルも温湯洗浄で剥離できるタイプに切り替え、クリーニング作業の簡略化による省エネルギー効果も得られました。40万箱のブラダンは2005年5月までに新容器に切り替えを図っていきます。



新容器



包装設計を担当した
生産技術本部生産技術部 栗原正美さん



オリンパス深セン福田事業場長
河手保宏さん

物流の環境負荷低減の取り組み

神奈川県川崎市の物流メインセンター(オリンパスロジテックス東京センター)は、2001年8月より稼働を始め、3年近くが経過しました。

2003年度は、定期便の運行見直し等を行い、年間トラック使用量(車格t×走行距離km)は9,009,511t・kmでした。これは前年度実績に比べ約4%の削減となります。また、定期便CO₂排出量は793トン・CO₂と、これも前年度比約3%の減少でした。これらは、ロジテックスの全従業員が取り組んだ物流環境負荷低減活動の結果といえます。

さらに、ISO14001認証取得に向けて廃棄物削減にも積極的に取り組み、社内の使用済み古紙を業者によって再生加工し、梱包の際の緩衝材として再利用しています。



緩衝材を詰め込む



再生した緩衝材

グリーン調達

安全性の高い製品を提供させていただくため、環境負荷がより少ない材料や部品の調達に加え、有害化学物質の排除をめざしたグリーン調達を、お取引先と協同で推進しています。

グリーン調達への取り組み

オリンパスは、従来よりグリーン調達に取り組んでいます。お取引先の「環境保全活動への取り組み」と、部品・部組品に含まれる「化学物質調査」を実施させていただき、「品質・価格・納期」に「環境」を加えた「Q・C・D・E」による品質管理を行っています。2003年はグリーン調達調査共通化協議会の「トライアルガイドライン」に沿って、調査仕様Ver.1.1で「化学物質調査」を実施しました。このトライアル調査結果を基にして、調査品目の選定、調査票への転記、調査票送付、回答納期進捗管理等のシステム化や得られた回答データのデータベース構築を進めるとともに、新たにリリースされた統一調査仕様Ver. 2.0による本格運用に取り組んでいます。

統一調査仕様Ver.2.0の本格運用にともない、お取引先説明会を開催しました。2004年1月フィリピン・セブ島を皮切りに、2月、3月と、国内・外のお取引先に対してオリンパスグリーン調達基準により順次説明会を開催し、グリーン調達調査の協力要請を行いました。

今後は、得られた化学物質情報を精査し、非含有・含有情報の検証を行うとともに、2006年7月より発効する電気電子製品を対象とした有害物質の規制「EU指令：2002/95/EC(RoHS)」に向け、グリーン調達の推進を図っていきます。

有害物質の使用を制限するEU指令

1998年4月、欧州委員会が、電気電子機器の回収・リサイクルと有害物質の規制(WEEE・RoHS)/製品のライフサイクルを通じての環境影響に関するアセスメントの実施(EEE)のドラフトを提示しました。その後「EEE」を切り離し、「WEEE & RoHS」の指令化が進められ、2003年2月13日に「2002/96/EC(WEEE)」と「2002/95/EC(RoHS)」が制定されました。「RoHS」は、重金属4物質(カドミウム・鉛・水銀・六価クロム)と特定臭素系難燃剤2物質(PBB・PBDE)の電気電子製品への使用を制限する「電気電子製品に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州指令」として、2006年7月から欧州で製造あるいは上市される10製品カテゴリーの電気電子機器に適用されます。

オリンパスはこれらの法規に対して、開発設計・品質管理・在庫管理・販売戦略のすべてに関わる課題として取り組んでいきます。

グリーン調達調査共通化協議会への参加

グリーン調達調査共通協議会(JGPSSI: Japan Green Procurement Survey Standardization Initiative)は、調査対象リストおよび回答フォーマットを共通化することによるグリーン調達調査にかかわる調査労力の軽減および回答品質の向上を目的として設立され、日本における調達調査方法を世界標準とするために、欧州(EICTA: 欧州情報通信技術製造者協会)や米国(EIA: 米国電子工業会)の業界団体に働きかけ、世界共通化の協議を進めてきました。オリンパスもこの協議会に加入し、統一調査仕様の作成に参加しています。

この協議のなかで調査が必要な化学物質群を決め、2003年1月に「トライアルガイドライン」が、2003年7月に統一調査仕様Ver. 2.0が



お取引先説明会



オリンパスグリーン調達基準Ver.2.0

安全な化学物質への代替化

オリンパス製品をお客さまに安心してお使いいただくために、さまざまな化学物質の安全情報と法規制を先取りし、製造に利用する有害物質の廃絶を進めています。

環境保全・安全性のための有害物質排除

2003年度は、オリンパスの製品設計・製造・調達のすべてにわたる化学物質の社内利用基準を見直し、「環境関連物質管理規定 Ver.2」に定め、新たに設定したオリンパスエコプロダクツ基準に反映し運用しました(化学物質管理パフォーマンスデータについては24ページ参照)。

鉛フリーはんだ化、鉛フリーレンズ化、脱PVC化、脱水銀化、医療機器洗浄消毒液の低毒性化など、製品の安全な物質への代替化、粉体塗装化、三価クロムめっき浴化など、製造プロセスへの環境配慮技術の採用を進めています。

区分	製品に含有される物質
使用禁止 レベル1: 製品に含有されることがあってはならない レベル2: 使用制限計画に沿って製品への含有を全廃する	16物質群 ・カドミウム化合物 ・鉛化合物 ・水銀化合物 ・六価クロム化合物 ・特定臭素系難燃剤 等
使用管理 製品への含有量および使用部位を把握する	14物質群 ・ヒ素化合物 ・ベリリウム化合物 ・ニッケル化合物 ・セレン化合物 等

区分	生産時に使用される物質
使用禁止 レベル1: 生産時に使用してはならない レベル2: 使用制限計画に沿って生産時の使用を全廃する	32物質群 ・オゾン層保護法の特定、指定物質 ・土壌、地下水汚染防止使用禁止物質 ・大気汚染防止法の特定粉塵 ・化審法第1種特定化学物質 等
使用管理 オリンパス内での生産・廃棄時に使用状況を管理する	PRTR法第1種指定物質 (上記区分の重複物質を除く)

環境関連物質の利用基準

鉛フリーはんだリフローライン

カメラの実装基板には、一般の電気部品に比べて熱に弱い特殊な部品がたくさん使われているため、鉛フリーはんだ化の主流となっている高融点のすず・銀・銅系はんだでは、部品にダメージを与えるおそれがあります。



辰野事業場の鉛フリーはんだリフローライン

窒素を充填したリフローとクリームはんだ印刷の製造技術を開発し、低融点のすず・亜鉛系はんだ実装プロセスを、国内・中国の主要製造拠点に設置し、製品の鉛フリー化を進めています。さらに、電気部品の耐熱信頼性を見極めながら、すず・亜鉛系とすず・銀・銅系はんだとの使い分けによる、はんだの鉛フリー化を図っていきます。

粉体塗装

顕微鏡の外観塗装に、粉体塗装プロセスを導入し、溶剤の大気排出・廃塗料汚泥の処理・塗装プロセスの廃水処理をとまなう従来の溶剤希釈型塗装プロセスの改善を進めています。粉体塗装化により、キシレン等の希釈溶剤の大気排出をなくし、粉体塗料は回収再利用して、プラスチック廃棄物を減少させます。



顕微鏡部品の粉体塗装

顕微鏡の外観塗装に、粉体塗装プロセスを導入し、溶剤の大気排出・廃塗料汚泥の処理・塗装プロセスの廃水処理をとまなう従来の溶剤希釈型塗装プロセスの改善を進めています。粉体塗装化により、キシレン等の希釈溶剤の大気排出をなくし、粉体塗料は回収再利用して、プラスチック廃棄物を減少させます。



粉体塗装された顕微鏡

省エネルギー・省資源

エネルギー資源の保護と地球温暖化防止の観点から、省エネ活動を推進しています。事業拡大にともないグループ全体のエネルギー使用量は増加しましたが、国内は使用量を削減し、売上高原単位も大きく改善しました。

エネルギー総使用量の推移

2003年度の国内エネルギー使用量は1,151テラジュールで、前年度比で3.9%削減しました。CO₂排出量も対前年度比で5.6%削減しています。売上高原単位では、前年度比23%削減し、環境資源をより有効利用する経営をめざしています。また、海外においては、生産拠点のうち最大規模の中国・深セン工場について2000年度よりエネルギー使用量を把握しています。

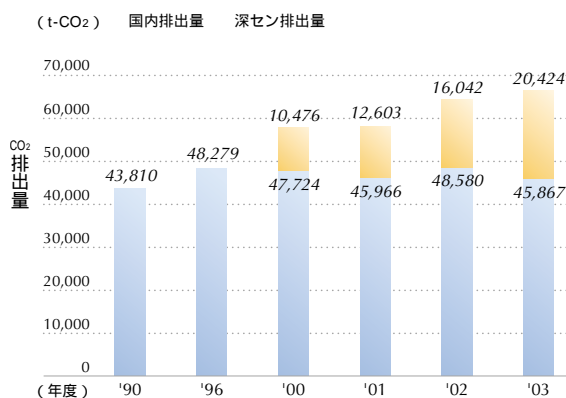
2003年度は海外生産量が増加したため、深セン工場を加えたエネルギー使用量は1,567テラジュールで、前年度比3.9%の増加となりました。

2003年度の活動においては、国内10事業場および中国事業場拠点のエネルギー使用状況の把握と省エネルギー改善案の掘り起こしのため、受変電設備、ポンプ、モータ、空気圧縮機、照明、空調、生産設備等の各設備調査と環境配慮設備導入切り替え時期について各生産拠点設備担当者と検討し、今後のグループ全体の省エネルギー施策構築へ向けた計画策定を行いました。特に海外におけるエネルギー使用量が事業規模拡大にともない増加していますので、重点的かつ早急に省エネ施策の展開を進めます。

CO₂排出量の推移

オリンパスグループの生産活動による全体のCO₂排出量は66,291トン-CO₂(前年度比2.6%増)で、事業規模拡大にともないグループとしては増加しています。売上高原単位では、国内のみ1996年度比で55%削減しています。今後は設備効率化、生産革新といった手法により、省エネ並びに生産活動におけるエネルギー使用量の削減を進めることで、よりエネルギー効率が高い生産活動をめざします。

2003年度よりエネルギー系のCO₂排出量のみでなく、非エネルギー系の温室効果ガスの排出についても管理を始め、地球温暖化防止に向けた取り組みを積極的に進めています。



深センのCO₂排出係数は、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」の平成11年度の係数を国内と同様に使用し、算出しています。

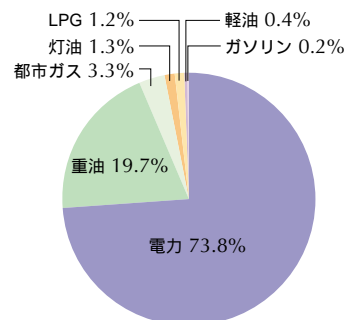
CO₂排出量の推移

項目	単位	1990年度	1996年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	43,810	48,279	47,724	45,966	48,580	45,867
エネルギー使用量	TJ	1,084	1,187	1,194	1,159	1,198	1,151
売上高 (オリンパス単体)	億円	1,574	2,017	3,129	3,283	3,464	4,252
売上高原単位	t-CO ₂ / 億円	27.8	23.9	15.3	14.0	14.0	10.8
売上高原単位 (96年度を100)	%	-	100	64	59	59	45
原油換算	kℓ	28,069	30,723	30,910	30,000	31,012	29,806

CO₂排出量:「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」の平成11年度の係数を用いてすべての年度について算出しています。ジュールへの換算:電力は「エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則」、その他は「総合エネルギー統計」の係数を用いてすべての年度について算出しています。

原油への換算:「エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則」の係数を用いて算出しています。

エネルギー使用量と売上高原単位



2003年度エネルギー種別CO₂排出量

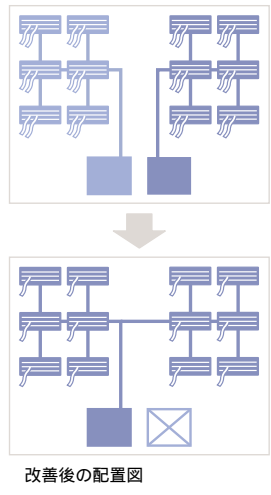


省エネルギー活動

● **フロア・空調機のタイマー運転**
 オリンパスオプトテクノロジー(株)坂城事業所
 排水処理施設のエアレーションに、11kWフロア2台が24時間稼働していましたが、排水処理に必要なエア量を再調査した結果、必要エア量が1台でまかなえることが判明しました。また、空調機にカレンダータイマーを導入し、中間期(春・秋季)の外気取り入れ冷房を停止しました。双方の改善の結果、年間261,000kWhの電力を削減できました。

● **大型空調機の省エネ対策「外気冷房・ダクトのバイパス化」**
 白河オリンパス(株)

基板組み立て職場は、はんだ作業で熱が多量に排出されることから、冬季も職場全体に風を送っており、外気を利用した冷房により、床面積約1,000m²を2台の空調機で冷房していました。このたびの改善では、空調機のダクトをバイパス化したことにより、1台の稼働で空調が可能になりました。その結果、年間44,000kWhの電力を削減できました。

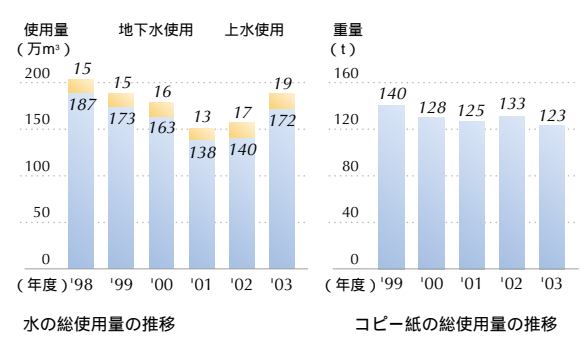


● **高効率トランスへの更新**
 オリンパスオプトテクノロジー(株)大町事業所
 これまで使用していたトランスは15年以上前に導入した製品で、受電損失が大きいものでした。受電損失が従来より22%改善された油入タイプの高効率トランスを5台導入した結果、年間40,000kWhの電力を削減できました。



省資源活動

2003年度の水の総使用量は191万m³で、前年度比22%増となりました。コピー紙の使用量は、123トンで、前年度比8%減でした。



● **水使用量の削減**
 白河オリンパス(株)

2003年度、白河オリンパスの上水道使用量は、9,300m³でした。村から送られてくる水圧は高めに設定されていましたが、これを減圧弁により減圧制御し、職場に給水することで、年間1,000m³の水使用量を削減することができました。



● **水循環**
 伊那事業場

伊那事業場のレンズ洗浄機は、純水洗浄で水を多量に使用します。この水を再度純水化し、循環使用することにより、年間1,200m³削減することができました。



廃棄物削減・リサイクル推進

2003年度は「ゼロエミッション宣言」の実現を重点課題に取り組みました。その結果、国内全主要事業場がゼロエミッションを達成しました。

国内全主要事業場ゼロエミッション達成

2003年度は主要事業場の「ゼロエミッション宣言」を目標に積極的な展開を図りました。その結果、国内の全主要開発・生産・物流拠点(11サイト)でゼロエミッションを達成することができました。

オリンパスでは「最終処分量」の削減を第一に捉え、「中間処理後の埋立量を総排出量の1%以下とする」ことをゼロエミッションの到達基準としています。その審査のため、審査基準や運用規定等を整備しました。

審査は、業者委託契約書、マニフェスト等の法規制対応や、職場の推進体制が確立され達成後の維持管理が継続可能であるかどうかを判定基準としました。

各事業場が、徹底した分別回収や再資源化活動を進めた結果、6月の辰野事業場を皮切りに、2004年3月までに国内全主要事業場がゼロエミッションを達成しました。

なお、達成事業場にはオリンパスゼロエミッション達成認定書を発行し、各事業場に授与しました。

今後オリンパスは国内販売・営業はもとより、海外拠点でのゼロエミッション活動も進めていきます。



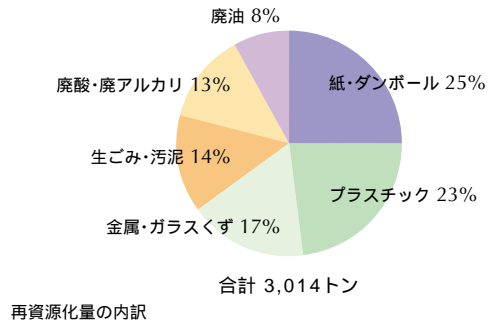
審査風景

達成認定書授与式

2003年度の再資源化量と再資源化率

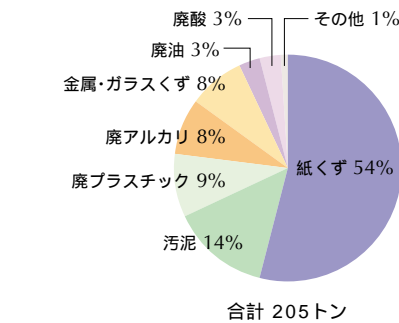
オリンパスでは、各事業場で発生する排出物発生総量のうち、資源として利用価値のあるものを各事業場内設備や外部委託により再資源化し、その量を再資源化量として集計しています。この中には有価物として売却したものも含まれています。

2003年度の再資源化率は94%であり前年度より18%向上しました。徹底した分別回収、再資源化ルートの探索などにより、従来困難であった廃棄物に対する再資源化が可能になりました。

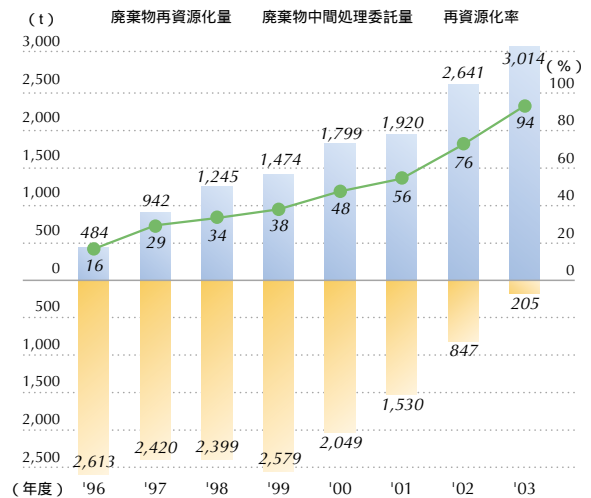


廃棄物中間処理委託量の推移

廃棄物中間処理委託量の削減に向けて、当社の特徴的な排出物であるレンズ汚泥や廃プラスチック、廃酸・廃アルカリを集中的に再利用および社内循環する取り組みを行いました。その結果、2003年度における国内の開発・生産事業場の廃棄物中間処理委託量は205トンで、前年度に対して642トン(76%)、基準年度(1996年度)に対して2,408トン(92%)の削減を実現しました。



廃棄物中間処理委託量の内訳



再資源化量と廃棄物中間処理委託量の推移

廃棄物削減・リサイクル活動

- 内視鏡フィルムスプールリユース率向上
白河オリンパス(株)

内視鏡フィルムカセット(スプール、パネ、マキジクの3部品で構成)を回収しリユースを行っています。回収率は100%で、重量では年間6トンになります。



内視鏡フィルムのスプール

- 雑切粉の有価物化の推進
伊那事業場

ゼロエミッションの達成に加え、廃棄物処理内容の向上をもめざして取り組みを行ってきました。2003年度は金属加工職場から出る雑切粉削減に重点をおき、グループ内に分科会を作って、分別意識の向上、仮置き場の設置、複数バケツ化等に取り組みました。その結果、雑切粉の約50%、重量にして約9トンの有価物とすることができ、廃棄物量および処理費用を削減することができました。

- 酸回収装置導入による廃棄物排出量の削減
辰野事業場

メッキ職場から排出される廃酸の削減に向け、2003年11月から酸回収装置の稼働を開始しました。特別管理産業廃棄物にあたる廃酸の排出量を年間約26トン削減できる見込みです。



酸回収装置

- 廃液処理装置導入と蒸留水排水再利用
日の出工場

電子走査型超音波振動子の製造工程で使用するダイシングソ - からの廃液は、鉛濃度0.1ppmを上回るため一般の工業用水とは別の処理が必要でした。そこで、1日あたり1,200ℓの



廃液処理装置

処理能力を持つ廃液処理装置を導入し、廃液はいっさい外へ出さずに濃縮して再生水を作ることになりました。その再生水をタンクに貯め、加圧ポンプを使い庭木の散水や通勤バスの洗車時に使用しています。

- 切削部品の水洗浄切り替え
白河オリンパス(株)

切削部分を洗浄する際、軟水(温度50℃)をジェット噴射(高圧)で部品に吹き付けて切削油を除去する洗浄に切り替え、石油系洗浄液使用量や洗浄作業工数削減などで年間約400万円の費用削減を図りました。切削油は油水分離装置を利用して回収後、サーマルリサイクルを行っています。また、洗浄後の軟水は再使用しています。

- 通い箱運用によるダンボール箱の削減
三島オリンパス(株)

協力会社から調達している血液分析機用の部品は、多品種・少量で調達先が多く、梱包に使用したダンボール、緩衝材等の廃棄物が多く出ます。そこで、協力会社とタイアップして、部品ごとの形状に合わせた専用梱包通い箱を作製し、廃棄物の削減を行いました。協力会社が通い箱引き取りの運用により輸送費を抑えています。その結果、2003年度は600kgのダンボールが削減できました。副次効果として協力会社の輸送費削減もできました。



専用梱包通い箱

折りたたみ可能なプラスチック箱(中の緩衝材も戻し)プラスチックダンボール(緩衝材は専用)

化学物質管理

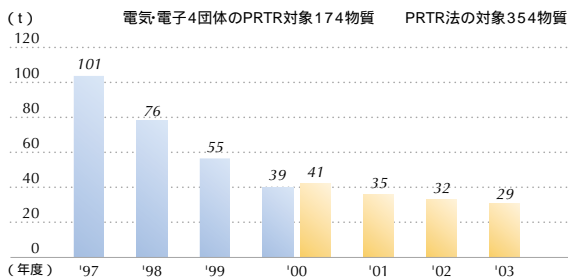
製造工程には多種多様な化学物質が使用されており、環境や健康に有害な影響を与えるものがあります。オリンパスは化学物質の環境への排出削減に向けて、さまざまな取り組みを行っています。

PRTR調査

オリンパスグループでは、2001年度より施行されたPRTR法の対象である354物質について、2000年度より調査を行っています。各事業場では年間取扱量が10kgを超える化学物質を調査し、全事業場合計取扱量が100kg以上の物質について集計しました。

その結果、2003年度のPRTR法対象物質の総取扱量は29.27トンで前年度比2.50トンの削減になりました。

トリクロロエチレンは2003年3月で全廃の目処をつけましたが、作業環境保全を優先させたため、若干の使用が発生しました。



PRTR物質の取扱量推移

物質番号	物質名	取扱量	排出量			消費量	除去消費量	廃棄物移動量	リサイクル量	埋立
			大気	水域	土壌					
16	2-アミノエタノール	0.54							0.54	
30	ビスフェノールA型エポキシ樹脂(液状)	0.26	0.02			0.17		0.06	0.01	
40	エチルベンゼン	0.19	0.13					0.06		
42	エチレンオキシド	3.67	0.75	0.06			2.87			
43	エチレングリコール	0.43						0.43		
63	キシレン	5.12	3.40					1.67	0.02	
69	六価クロム化合物	0.67						0.67		
101	酢酸2-エトキシエチル	0.30	0.02			0.11		0.17	0.00	
145	ジクロロメタン*1	0.47	0.33					0.01	0.12	
207	銅水溶性塩	0.13		0.04		0.05		0.05		
211	トリクロロエチレン*1	0.11	0.11							
224	1,3,5-トリメチルベンゼン	0.24						0.24		
227	トルエン	8.44	5.97					2.43	0.04	
230	鉛及びその化合物	5.12				2.83		1.52	0.77	
231	ニッケル	0.36	0.00	0.03		0.23		0.04	0.06	
232	ニッケル化合物*1	1.91	0.02	0.24		0.74		0.62	0.29	
243	バリウム及びその水溶性化合物	0.11				0.01		0.10		
253	ヒドラジン	0.12	0.06	0.06						
283	ふっ化水素及びその水溶性塩	0.80						0.80		
304	ほう素及びその化合物	0.24	0.00	0.02		0.03		0.19	0.00	
307	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル*2	0.32		0.03				0.29		
309	ポリ(エキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	0.25		0.01			0.25			
	合計	29.27	10.85	0.49	0.00	4.17	3.11	9.34	1.32	0.00

単位：t

*1 ジクロロメタン、トリクロロエチレン、ニッケル化合物のうち硫酸ニッケルは有害大気汚染物質調査対象です。

*2 アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。

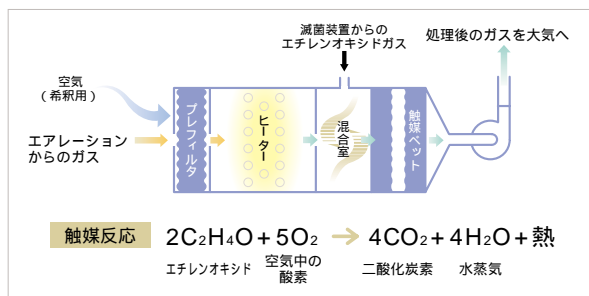
四捨五入のため、合計値が一致しない場合があります。

PRTR物質集計結果

エチレンオキシドガス触媒分解

青森オリンパス(株)

エチレンオキシドは、滅菌装置および滅菌ガスとして病院、診療所などで幅広く使用されています。この滅菌ガスであるエチレンオキシドを、環境に負荷を与えず排出するための触媒分解処理装置を導入し、無害化して排気しています。



分解方法のしくみと化学反応式

エチレングリコールの削減

伊那事業場

エチレングリコールの代替薬品を検討し、全レンズ自動加工機ラインに水平展開しました。ラインからエチレングリコールの使用を廃止することにより、年間350kg削減することができました。

リスクマネジメント

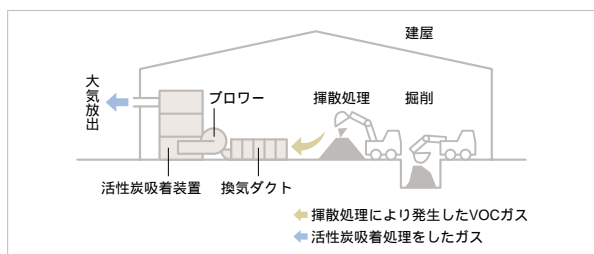
2002年度に環境基準超過が確認された岡谷事業所の浄化工事を行い、土壌改良対策を実施しました。また、海外での環境リスクアセスメントも積極的に展開しています。

岡谷事業所の土壌浄化

2002年度の土壌概況調査で汚染が判明した岡谷事業所の土壌浄化工事を行いました。トリクロロエチレンが環境基準を超過していた土壌は、密閉した建屋内で対象物質を揮散・回収し浄化したのち、埋め戻しました。重金属については、汚染土壌を掘り起こし、入れ替えを行いました。また、掘り出した汚染土壌は、セメントの原材料として再利用し、浄化を完了しました。



土壌浄化作業



土壌浄化工程

緊急時訓練

昨年までは各事業場で行われている緊急時模擬訓練を紹介してきましたが、2003年度は、コーポレート環境推進体制のISO14001認証取得(2004年1月)に関連し、全社的な立場から危機情報を一元管理し、危機管理システムの啓発を目的に、緊急時訓練を実施しました。

主に緊急連絡ルートと各担当窓口に通報が間違いなく伝達されるか、全社のイントラネット「緊急報告システム」を確認しました。辰野事業場の緊急模擬訓練と連携し、危機管理室、広報室(本社新宿モノリスビル)環境推進部が一体となって、対策本部設営から緊急記者会見までを想定した訓練を実施しました。



辰野緊急訓練



本社緊急訓練会議

海外における環境リスクアセスメント実施

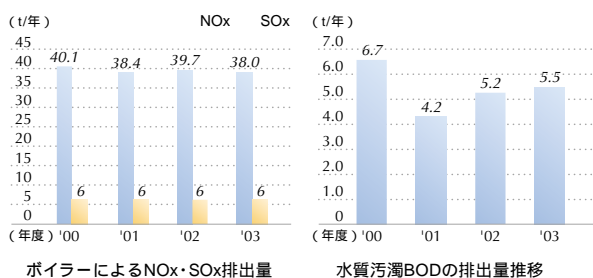
海外における環境リスクアセスメントは、フィリピンのOlympus Optical Technology Philippines, Inc(OPI)および中国の深セン工場と番禺工場で行いました。OPIの関係会社に対しても環境視察を行い、環境管理と改善項目の整合を図りました。海外における環境アセスメントおよび環境リスク診断は、当該国の法規制を遵守することはもちろんですが、グローバルな観点からさらに厳しい自主基準を設けて運用しています。



環境リスクアセスメントの実施

大気・水質汚染の防止

オリンパスグループでは、法規および条例の規制値遵守はもとより、各サイトで規制値より厳しい自主管理値を設定して環境関連施設の維持管理を行い、大気や水質の汚染防止に努めています。



ボイラーによるNOx・SOx排出量

水質汚濁BODの排出量推移

訴訟・罰金・苦情等

2003年度、オリンパスに対する環境関連の法令違反・訴訟・罰金・科料・事故はまったくありませんでした。

外部からの苦情は、騒音について1件ありました。苦情を受けた事業場は準工業地帯で、事業所付近の境界線測定基準値を下回っていましたが、騒音の発生源である排気ダクトのファンを改善しました。

社会貢献

オリンパスは、ソーシャル・インの経営思想に基づき、世界各地で、地域や次世代のため積極的に社会貢献に取り組んでいます。

● “A DAY IN THE LIFE OF AFRICA”プロジェクトにプレミアスポンサーとして参加

2002年2月、日本人2人を含む約100人の世界的な報道写真家により、24時間でアフリカ大陸を丸ごと写真に収めるという壮大なプロジェクトが実施されました。オリンパスは、参加写真家全員に対してデジタル撮影機材（一眼レフカメラ・プリンタ等）を提供し、また、プロジェクト遂行に必要なデジタル撮影の教育・技術サポートにおいても全面的に支援しました。写真集は英語、仏語、独語で刊行され、収益は全額、プロジェクト事務局を通じてアフリカのエイズ教育基金に寄付されます。2003年6月に東京、8月に神戸、11月にソウル、2004年2月には釜山で写真展（当社主催）を開催、たいへん好評でした。9月には、日本政府・国連・NGOが主体となる第3回アフリカ開発会議（TICAD3）が開催されました。当社は会場内でミニ写真展を開催、写真集を贈呈し

ました。

さらに10月にはニューヨークの国連本部にて、UNDR 国連開発計画との共催で、国連の貧困撲滅デーのイベントとして写真展を開催しました。国連からアナン事務総長夫人、2名の国連事務次長をはじめとする方々を迎えたオープニング会場では、オリンパス岸本会長より、東京での写真展収益の全額33,000ドルを「ミレニアム開発目標^{➡1}」に寄付いたしました。これらの躍動的な写真は、アフリカの希望を伝えるとともに、現実にかかるエイズ等の諸問題を世界の人々に考えてもらおうきっかけとなることから、社会的に大きな意義のあるプロジェクトに貢献できたと考えています。

➡1) 2000年、国連ミレニアム・サミットで採択された15カ年計画。世界の貧困と飢餓の撲滅、初等教育の達成、男女平等、平和、エイズ撲滅など8つの目標を掲げて運動を展開するもので、2003年度が初年度にあたる



東京巡回展

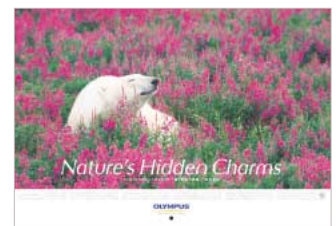


国連オープニングセレモニー

● ネイチャーフォトカレンダーによるWWF支援

オリンパスは、世界最大の民間自然保護団体であるWWFジャパンと協力関係にあります。このネイチャーフォトカレンダーは2004年版をもって19年目を迎え、オリンパスがWWFジャパンの協賛スポンサーとなって以来、着実に実績を根づかせている事業のひとつです。カレンダーには環境面からの配慮も施し、PVC（ポリ塩化ビニール）製の壁掛けフォルダ

ーを使用しない無公害タイプで、全ページに100%再生紙を使用しています。また、膨大に消費される紙資源の有効活用も考慮し、各月ごとに切り捨てることのないブックタイプとなっています。カレンダーの収益は、すべてWWFにおける活動資金として自然保護にあてられます。



ネイチャーフォトカレンダー2004年版

● Olympus America Inc., 結腸直腸がん予防運動の支援

OAI (Olympus America Inc.) は、結腸直腸がん、大腸がん検査について人々の意識を高める活動に積極的に取り組んでいます。その取り組みのひとつが、National Colorectal Cancer Research Alliance (結腸直腸がん研究基金、以下NCCRA) の支援です。NCCRAへ50万ドルを寄付したことは、全国ネットのテレビ、NBC “The Today Show” でも放送されました。

OAIではまた、Cancer Research & Prevention Foundation (がん研究防止協会) 主催の「がん月間」(3月)を毎年支援しています。27歳で結腸がんを克服したMolly McMasterさんの体験を取り上げた、直腸がん防止運動 “Colossal Colon^{➡2}” の、全米20都市をめぐるツアーのスポンサーにもなっています。

➡2) Colossal Colonは、人が中に入れるほどの大きさの大腸モデルのこと。



27歳で結腸がんを克服した Molly McMasterさん(左)、オリンパスのBob Reinhardt さん(右) とColossal Colon

● Olympus Schweiz AG, ボルネオ森林生態調査の支援

オリンパス・スイス(Olympus Schweiz AG)は、ローザンヌ動物博物館が支援するスイス連邦技術研究所の生態学調査に、実体顕微鏡SZX12、高級システム生物顕微鏡BX51、デジタルカメラC-3000ZOOMなどの機材を提供しました。
ボルネオの森林伐採の影響を調査するた

めに、14,000種の昆虫が森林河川から採集され、世界で類のないほどたくさんのかげろうが確認されました。そのうち10種は新種のかげろうであることが判明し、オリンパス・スイスの長年にわたる支援を称え、その中の1種に“Prosopistoma Olympus”という名が与えられました。



Olympus Europa GmbHが発行している機関紙“ECHO”

● Olympus U.K. Ltd., Julia Margaret Cameron Trust を支援

OUK(Olympus U.K. Ltd.)は英国のワイト島デインボラ・ロッジのJulia Margaret Cameron Trustをサポートしています。Julia Margaret Cameronは英国の先駆的な写真家で、女流写真家がほとんどいなかった時代に頭角を現し、偉大な写真家として今日までその才能が称えられています。デインボラ・ロッジは彼女がワイト島で暮らしていた当時住んでいた家で、偉大な英国作家、Tennysonのような著名人との交流の場でもありました。

デインボラ・ロッジは、1994年から始まった本格的な修復工事により当時の輝きを取り戻し、彼女の作品が常設展示されています。オリンパスはこの歴史的名所でDavid Bailey, Lord Patrick Lichfield, Barry Lategan, John Swannellといった著名な写真家たちの作品展示も手がけています。新しくエキサイティングな写真を歴史的な建物で展示することによって、OUKは英国の文化の多様性を伝えていきます。



Julia Margaret Cameron Trust代表Ron Smithさん(左)、写真家Lord Snowdonさん(中)、OUKのGraeme Chapmanさん(右)

● KeyMed(Medical & Industrial Equipment)Limited,ウガンダの孤児と道路整備の支援

KeyMedは、Mildmay International に協賛し、英国とアフリカのエイズ患者緩和ケアに関する慈善事業や、エイズによって親を亡くしたり栄養失調にさらされているウガンダの子どもへの資金や物資の援助を行っています。KeyMedの従業員や地域の人々の協力により、おもちゃ、衣料品などがコンテナ8個分寄贈され、Mildmay's Baby Unit, Adolescent

Centre, Day Care Clinicへ送られました。また、KeyMedでは、ウガンダの危険な道路を改善する事業に積極的に参加しています。ウガンダ警察、市議会、Kampala西部のRotary Clubと協力して、Kampalaの事故多発地帯の死傷事故を減少させるため、14のプロジェクトを実施しました。



Mildmay Day Care Clinicでは寄贈したおもちゃが利用されている

● Olympus(Shenzhen) Industrial Ltd., 深セン市で植樹活動

2003年12月、深セン市国際園林花卉博覧園で行われた植樹活動に、オリンパス深セン(Olympus[Shenzhen]Industrial Ltd.先参加しました。この植樹活動は深セン市と深セン市緑色基金会により開催されたもので、緑化・美化を目的としたイベントです。オリンパス

深センの200人の従業員が、シャベルで土を掘ったり、水を撒いたりしながら208本の木を植樹し、来年も自分の植えた木を見にくることを互いに約束しました。従業員の積極的な植樹活動は、環境を守る企業として、人々に深い印象を与えました。



深セン市での植樹活動

社会・環境コミュニケーション

環境情報の発信や地域のイベントへの参加など、生活環境を共有する地域社会とのコミュニケーションを大切にしています。

「わくわく子供科学セミナー」の開催

子どもたちの科学への興味を育てようという趣旨で行っている、小、中学生対象の「わくわく子供科学セミナー」。従業員ボランティアスタッフ(わくわくプロジェクト)によるもので、2003年度は4回の開催でした。光に関する実験や体験を通して、科学の面白さ、不思議さを伝える

セミナーは、子どもたちにたいへん好評です。また、従業員ボランティアも子どもたちと同じように「わくわく」しながら参加し、毎回の従業員ボランティア募集枠(30~80名)もすぐに埋まるほどです。オリンパスでは今後も、子どもたちに科学を体験する機会を提供していきます。



中学校で開催した「わくわく子供科学セミナー」

Olympus America Inc.、学生・年配者向けのデジタル写真教育

OAIは、学生向けのデジタル写真教室「未来の写真家たち」をはじめ、高齢者やカルチャーセンター、芸術機関向けの教育プログラムを開催しています。学生向けプログラムでは、ワシントン州フィラデルフィアやフロリダ州タンパの経済的に恵まれない若者たちも招待しまし

た。また、高齢者の方には、家族や友人とデジタルカメラを使ってコミュニケーションをとり、活動的な生活が送れるような教育プログラムを提供しています。OAIは、このようなプログラムに資金援助や機材の寄贈、教材を提供するなどの教育支援を行っています。



フィラデルフィアのClara Barton小学校4年生の生徒たちに写真を見せる、OAIの専属写真家Nick Keishさん

環境広告

「環境にとっても、高性能であること。」

「環境にも高性能といえる製品づくりに挑戦しています」そんなオリンパスの環境への思いを新聞、雑誌を通して、広く皆さまにお伝えしました。



オリンパス環境広告

エコプロダクツ2003

2003年12月に東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2003」に出展しました。オリンパスの環境取り組みを紹介するマネジメントゾーン、タイプIIエコラベル製品を中心に紹介するプロダクツゾーン、児童・生徒を対象に環境への興味を育成する「わくわく自然科学教室」の3つのゾーンに分けて展示を行いました。出展に用いたセットのほとんどすべてをリユースにまわし、わずかにリユースできなかったものはリサイクルしました。



エコプロダクツ2003 オリンパスブース



プロダクツゾーンの展示

環境に配慮したネオンサイン

オリンパスの新しいネオンサインが、八王子と銀座に設置されました。

オリンパスの躍動感を、光・デジタル・デザインの融合により表現したこのネオンサインは、技術的にも環境に配慮されたネオンになっており、インバータ式低圧ネオンを使うことで、ネオンの輝度が明るくなり、さらに従来のネオン広告より電力を40%節約しています。



銀座のネオンサイン



八王子のネオンサイン

● 環境レポートと環境ホームページ

オリンパスは環境コミュニケーションの中核ツールとして、「オリンパス環境レポート」を2000年以来毎年発行しています。2003年には前年までの日本語版・英語版に加え、新たに中国語版を発行し、オリンパスの環境活動をより多くの方に知っていただくことができました。また、新たにリニューアルされたオリンパスホームページの社会・環境活動ページ (<http://www.olympus.co.jp/jp/corc/environment/>) において、「環境レポート」では掲載できなかった内容や詳細なデータを公開しています。

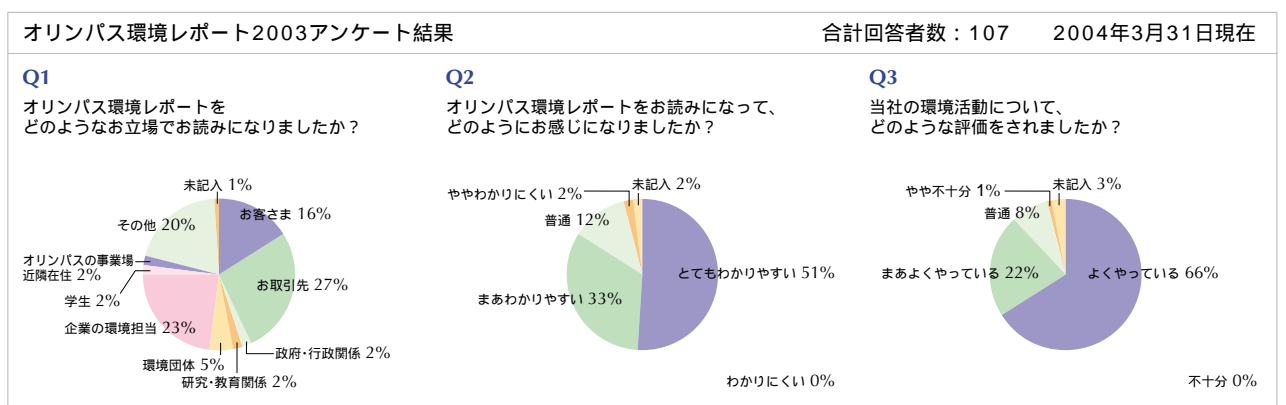
環境レポート2003と発行部数



オリンパスホームページ「社会・環境活動」

● 「環境レポート2003」アンケート 改善指摘事項とその対応

「環境レポート2003」に対する皆さまからのご意見・ご感想を数多くいただき、ありがとうございました。皆さまより寄せられましたご意見は、今回の「環境レポート2004」に反映させていただきました。



● オリンパス環境レポート2003へのご意見

改善すべき点	対応	主な関連頁
事例がもう少し紹介されるとよいと思いました。省エネ・省資源のページのように各工場での取り組みを比較するページを増やしてほしい。	▶▶▶ 各事業場の取り組みを国内・海外サイトレポートとして盛り込みました。各事業場の報告内容を比較できるようにフォーマットを整理して示してあります。	p32-39
「製品の環境配慮」では、写真や図で具体的に製品を見ないとわかりにくい。	▶▶▶ オリンパスエコプロダクツの事例を、具体的に写真を使って示しました。	p12-16
次年度に取り組み目標についてもふれたらどうか。	▶▶▶ 環境基本計画の中で2004年度目標を一部見直し記載いたしました。	p6
環境会計は唯一わかりにくい内容でした。	▶▶▶ 各コスト分類に対する具体的な取り組み内容を記載するスペースを拡大しました。	p8
岡谷事業所は早く土壌改善してほしい。	▶▶▶ 土壌改良を2003年度のなかで実施し、その結果を記載しました。	p25
第三者意見についても掲載されていれば、なおよい。	▶▶▶ 現在は、自社内で責任を持って誠実に記載するという姿勢で制作しております。	
よかった点 意見を反映したレポートにしたこと。 2002年版に比べて説明文が充実したように思います。 項目が大見出しで、見開き2ページまたは1ページにまとめられており、非常に見やすく仕上がっています。 内容はともすれば、自社製品のアピールが多く盛り込まれがちですが、環境問題にまとめられており、好感がもてます。 活動内容が具体的に表現されており、企業の環境担当者としてたいへん参考になりました。	地域社会での活動に参加してゴミを拾ったりして、目に見える活動で地域社会に貢献しているんだなあと感じました。実際やっているところを見たりもしました。 社会貢献のページを見て広い視野で活動していることがよく理解できました。 環境教育について、体系から実際の教育方法までシステムがしっかりと明記されている点よかった。 製品への取り組みにおいては環境への配慮、環境技術開発に力を入れていることが理解できました。 土壌汚染について、調査機関のコメントを掲載されていた点。 ボーリング調査、配管の地上化は本当に具体的に活動していることが感じられました。	

安全・衛生

オリンパスは規制遵守はもとより、さらに高い水準をめざして労働安全および健康・衛生の管理を推進しています。新しいプログラムを積極的に導入して、医療・健康領域の事業に関わる立場からも健康増進を図っています。

労働安全管理

オリンパスの各事業場では、「作業環境の危険ゼロ」をめざして、定期パトロール、交通安全指導など、災害撲滅に向けた取り組みを行っています。2003年度は39件の労働災害が発生し、前年度に比べて19件増加しました。これは通勤途上の交通事故が増加したためです。

また、安全で快適な作業環境を維持・改善するために、各事業場では労働安全衛生法に基づき、作業場の騒音と粉じん・有機溶剤・特定化学物質の空气中濃度測定を実施しています。2003年度は大部分が第1管理区分となっていますが、第2、第3区分の5事業場9職場については、製造装置の騒音が問題となっており、可能なかぎり発生源対策に取り組んでいます。

項目	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
発生件数	13	20	22	20	20	39
休業災害件数	1	5	9	7	8	7
不休業災害件数	12	15	13	13	12	32
休業日数	14	25	238	163	41	149

労働災害件数

区分	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
第1管理区分	168	162	105	114	125	133
第2管理区分	8	7	1	2	4	6
第3管理区分	2	2	2	2	5	3
測定区分計	178	171	108	118	134	142

第1管理区分:作業環境管理が適切に行われていて、現在の管理が継続されることが望まれる作業環境
 第2管理区分:第1と第3管理区分の中間に位置して、改善により第1管理区分へ移行が望まれる作業環境
 第3管理区分:作業環境管理が不適切であり、速やかな改善を要求される作業環境

作業環境測定職場数

新健康診断

オリンパスは2003年4月より、生活習慣病予防と各種がん検査の強化を目的とした新しい社内健康診断制度を導入しました。従来の健康診断に加え、**た主な健診項目は、胃部ペプシノゲンと内視鏡検査の組み合わせ、胸部レントゲン直接撮影、腹部超音波、眼底検査、肺ヘリカルCT、大腸内視鏡、婦人科検診、PSA検査等です。**これらの社内新健康診断内容の強化は、オリンパス健



オリンパス健康保険組合ホームページ

康保険組合が中心となって取り組んでおり、「オリンパス健康保険組合ホームページ」や健保ニュース「ヘルシーピープル」を通じて社員やその家族に情報提供しています。

健康応援サイト「おなかの健康ドットコム」

オリンパスは、一般の方向け健康応援サイトとして、消化器疾患と内視鏡に関するポータルサイト「おなかの健康ドットコム」を開設いたしました。インターネット上で簡単な質問に答えるだけで、おなか(消化管)の健康状態を調べられる「おなかの健康チェック(※1)」から、臓器や疾患別の検査・治療方法の紹介、内視鏡検査の役割や内視鏡の先端技術に至るまで、おなかの健康と内視鏡に関する情報を多数掲載しています。



「おなかの健康ドットコム」ホームページ

※1) 結果はあくまで目安のため、健康に不安のある方は医師にご相談ください。

ウォーキングキャンペーン

生活習慣病予防に向け、オリンパスでは2000年度より、毎年9月～11月の3カ月間をウォーキングキャンペーン期間と設定し、ウォーキングを広める活動を実施しています。キャンペーン4年目を迎えた2003年度は、参加者も1,581人と前年度より87人増加し、一日一万歩を達成した割合(完歩率)も62.7%になりました。このウォーキングキャンペーンは、日本縦断ウォークラリーとして開催しており、第1回で北海道稚内を出発して、第4回では広島まで到達した計算です。最終年となる第5回の2004年度は、鹿児島をめざします。2003年度は60万歩以上(被保険者)または72万8,000歩以上(被扶養者)達成の参加者全員に、本人の名前と達成歩数を記載した「認定証」を発行しました。



ウォーキングキャンペーン認定証

	1回目	2回目	3回目	4回目
参加申込者数	1,237	1,410	1,494	1,581
最終歩数登録者数	1,237	1,309	1,318	1,470
初参加者数	-	884	630	561
1日1万歩完歩者数	486	778	810	921
最終登録完歩率(%)	39.3	59.4	61.5	62.7

ウォーキングキャンペーン実績

人事制度と育成

オリンパスは、一人ひとりが能力を発揮し自己実現を果たせる職場づくりや、専門能力や成果主義を支援する人事制度と育成制度の導入に、積極的に取り組んでいます。

基本方針

オリンパスは、価値創造企業を実現するもっとも重要な力は「人」にあると考えて人事方針と育成方針を策定しています。

[人事方針]

- ・ 個の尊重と自立
- ・ 高い専門能力とモラル
- ・ 成果・能力主義の推進

[育成方針]

- ・ 能力開発は自主的にみずから実践することを基本とし、人材開発のもっとも基本となる取り組みは、業務遂行過程を通じてみずからを開発するOJD(On the Job Development)である。

チャレンジシステム

人事方針である「個の尊重と自立」「高い専門能力とモラル」「成果・能力主義の推進」を側面支援し具現化する制度として、1990年に「求人型社内公募」を、2001年に「求職型社内公募」を導入しました。求人型社内公募は職場側から求める人材を募集する制度で、上長の許可なく応募でき、面接合格になった場合は確実に異動できる制度です。求職型社内公募は上長の許可を得て1年間求職活動を行い、自分のやりたい仕事を自分で見つけて異動していく制度です。この2つの制度を総称して「チャレンジシステム」と呼んでいます。特に、「個の尊重と自立」とは、個人の主体的意志を信頼し尊重することを意味しており、自分の進むべき方向や身につけるべき専門能力は、自分自身で見いだすことを基本にしています。自分のキャリアは自分で考え、自分で切り拓いていく、自立した自己責任型のプロフェッショナルを育成するための制度が「チャレンジシステム」です。

	職種数	応募者数	異動人数
1999年	24	50	21
2000年	41	47	20
2001年	43	36	22
2002年	69	46	22
2003年6月	83	28	15
2003年12月	92	37	16

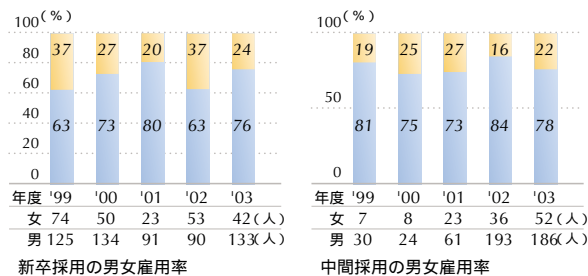
求人型社内公募 過去5年間実績

	求職登録者	異動成立者
2001年	44	23
2002年	32	16
2003年	29	7

求職型社内公募 過去3年間実績

男女雇用機会均等

オリンパスは新卒採用、中間採用および昇格・昇給においても、性別による差別はまったくなく、人事制度の基本方針である「個の尊重と自立」「高い専門能力とモラル」に沿って、個性豊かで高い専門能力とモラルを兼ね備え、自立したプロ意識をもった人材を積極的に採用、活用しています。



オリンパスカレッジ

人事方針、育成方針に基づき社員の専門性を高めるために、ビジネスカレッジとテクニカルカレッジを持つオリンパスカレッジを設立し、積極的に支援しています。

高度技能者育成制度

「高度技能者育成制度」では、技能者の技術・技能力のレベルアップを計画的に図ることにより、(1)高い専門性の追求、(2)技能のマルチ化、(3)開発技術者の指導・育成、(4)技術・技能の継承、(5)外部での業務立ち上げおよび指導をめざしています。

個々人のレベルは技能レベル評価表に基づいて評価され、資格要件を満たすと、高技能者として特別称号が与えられます。



中央職業能力開発協会と(社)全国技能士会連合会により共催されている第21回技能グランプリにおいて、旋盤部門で優勝し、厚生労働大臣賞と主催者賞を受賞した伊那事業場メカグループの倉田源一さん

国内・海外拠点の取り組み

国内・海外の拠点では、各々の地域性に合わせた環境・社会への取り組みを行っています。

● 技術開発センター(八王子)

所在地：〒192-8507 東京都八王子市石川町2951
TEL：(0426)42-2111(代表)

事業内容：医療、映像、産業関連等の開発、要素・生産技術の開発

土地面積：89,552㎡ 建物延床面積：70,767㎡

技術開発センター(八王子)は、オリンパスグループの製品開発、技術開発の中心拠点で、国内最大規模の事業場です。実験や試作によりエネルギーを多量に使用していましたが、「省エネ草の根活動」を推進・強化し、2003年度は電力を一人あたり7%(450kWh/人)削減しました。また、リサイクル活動では、試作廃棄物や廃液を多量に排出していましたが、中間処理委託していた実験廃液の汚泥を、製鉄所の炉の冷却剤としてリサイクル化し、リサイクル率は74%から91%に向上しました。

地域への貢献としては、2003年5月に開催された「第20回八王子福祉祭り」に、従業員20名がボランティアとして参加しました。万華鏡製作、工業内視鏡の実験、デジタルカメラ体験コーナーやオ

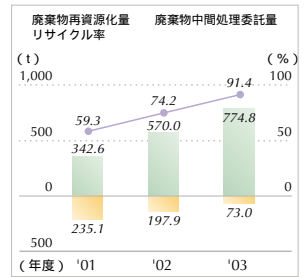
リンパス太鼓連「響(ひびき)」の演奏は大盛況で、八王子の食堂から出る厨芥物を有機肥料化した「エコユキ」の無料配布も、多くの人々に喜ばれました。



総務グループ 中野 昇さん



オリンパス太鼓連「響」の演奏



廃棄物再資源化量とリサイクル率の推移

エネルギー・廃棄物・PRTR取引量実績データ(2003年度)

エネルギー					廃棄物					PRTR取引量				
電力 (万kWh)	重油 (kℓ)	都市ガス (千㎡)	ガソリン (kℓ)	その他 (kℓ)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	キシレン (t)	トルエン (t)	エチレンオキド (t)	その他 (t)
1,910	84	708	1	59	8,732	37.7	29.7	5.7	774.8	91.4	0.03	0.03	0.10	0.11

● 日の出工場

所在地：〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井34-3
TEL：(042)597-7111(代表)

事業内容：医療用、工業用内視鏡および超音波製品の生産

土地面積：8,486㎡ 建物延床面積：10,606㎡

日の出工場では、環境負荷として電力消費が最大の環境側面となっており、この削減が工場にとって最重要課題です。具体的には電力消費量の削減、電力の有効利用の観点から、設備稼働や運用面の改善に取り組み、次のような活動を継続的に行ってきました。

- 1 空調パッケージのスケジュール運転の実施
- 2 コンプレッサー圧力制御の改善
- 3 空調へのエコアイスの活用
- 4 CPU室の空調運転方式の改善

これらの活動の成果については、関東地区電気使用合理化委員会より高い評価を受け、毎年賞をいただいています。

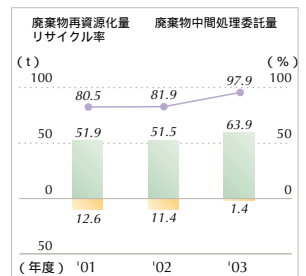
また、別の組織活動であった労働安全衛生活動を、「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針(平成11年、厚生労働省発行)の考え方を参考に環境マネジメントシステムに取り入れ、安全衛生委員会の機能もあわせ持つ環境衛生部会を発足させ、二つの活動を一体化してPDCAのサイクルを回しています。



企画グループ 林 佐登留さん



電気使用合理化最優秀賞盾



廃棄物再資源化量とリサイクル率の推移

エネルギー・廃棄物・PRTR取引量実績データ(2003年度)

エネルギー			廃棄物					PRTR取引量	
電力 (万kWh)	LPG (千㎡)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	エチレンオキド (t)	その他 (t)
206	26	898	1.0	0.0	0.4	63.9	97.9	0.37	0.05

● 伊那事業場

所在地：〒396-0021 長野県伊那市大字伊那5128
TEL：(0265)72-1111(代表)

事業内容：光学顕微鏡の生産

土地面積：38,863㎡ 建物延床面積：38,677㎡

伊那事業場では、労働安全衛生マネジメントシステムOHSAS-18001(OHSAS = Occupational Health and Safety Assessment Series)の規格に基づいたシステムを構築しました。OHSASには労働安全衛生と環境リスクの一元化管理が可能という利点があり、環境管理と安全衛生管理を環境事務局で融合を進めています。

また、地域とのコミュニケーションは環境関連事項のみにとどまらず、地域行事へ積極的に参加しています。毎年8月に開催される伊那祭りへは、20年以上にわたり従業員200名以上が参加。市民からはオリンパスの踊りとねぶたを毎年楽しみにしているとの声もいただくなど、伊那祭りを盛り上げています。春の高校伊那駅伝には1996年より協賛し、太鼓演奏・交通整理係などに参加して

います。特に太鼓の演奏は競技のスタートをいっそう盛り上げると好評です。伊那事業場ではその他、天竜川のごみ拾いや24時間の水質測定なども行っており、環境ISOの枠を越えた地域コミュニケーションとシステム構築を進めています。



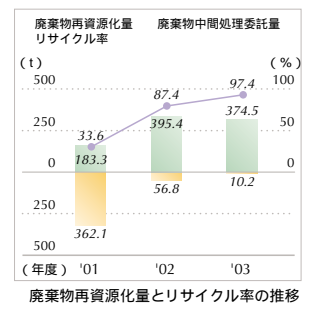
総務グループ 水谷 聡さん



伊那祭り



春の高校伊那駅伝



エネルギー・廃棄物・PRTR取扱量実績データ(2003年度)

エネルギー						廃棄物					PRTR取扱量					
電力 (万kWh)	重油 (kℓ)	LPG (千m ³)	ガソリン (kℓ)	その他 (kℓ)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	トリクロロエチレン (t)	鉛化合物 (t)	キシレン (t)	トルエン (t)	ジクロロメタン (t)	その他 (t)
1,119	845	5	15	185	6,867	7.8	0.0	2.4	374.5	97.4	0.11	0.06	0.55	0.60	0.20	1.26

● 辰野事業場

所在地：〒399-0495 長野県上伊那郡辰野町伊那富6666
TEL：(0266)41-4111(代表)

事業内容：デジタルカメラ・液晶検査装置の生産、半導体の研究開発

土地面積：125,840㎡ 建物延床面積：44,000㎡

辰野事業場は長野県の中心部に位置し、辰野町の辰野事業場と岡谷市の岡谷事業所の両サイトを抱える事業場です。2003年度の最重点取り組み項目に挙げた「廃棄物ゼロエミッション」の達成ができ、リサイクル率99.5%の維持管理状態を継続中です。「有害物の排除」に関しては、カメラ・液晶検査装置で製造工程の鉛フリーはんだへの切り替えが始まるとともに、六価クロムの代替検討も進み、第一次の切り替え実験と評価に入りました。

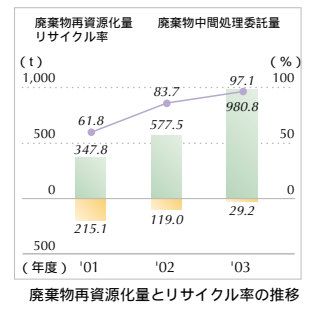
総量85kgのごみを集めています。また天竜川に流れ込む事業場の専用排水溝500mのブラッシング、水垢・水藻・砂利等の除去を実施し、清潔感を保っています。



総務グループ 中村 隆明さん



清掃風景



エネルギー・廃棄物・PRTR取扱量実績データ(2003年度) (株)岡谷オリンパス分を含む

エネルギー						廃棄物					PRTR取扱量					
電力 (万kWh)	重油 (kℓ)	LPG (千m ³)	ガソリン (kℓ)	その他 (kℓ)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	鉛化合物 (t)	キシレン (t)	トルエン (t)	その他 (t)		
2,536	1,358	12	10	22	12,970	23.8	5.5	0.0	980.8	97.1	1.28	0.41	0.07	3.15		

国内・海外拠点の取り組み

● 青森オリンパス(株)

所在地: 〒036-0357 青森県黒石市追子野木2-248-1
TEL: (0172)52-8511(代表)

事業内容: 医療用処置具の生産

土地面積: 26,345㎡ 建物延床面積: 8,967㎡

北東北の豊かな自然を背景にする青森オリンパスは、青森県内の優良企業として、クリーンな空間と最新の工場設備のもと、つねに先駆的なプラントをめざしています。青森県内でもいち早くISO14001活動を推進し、1998年に県下で2番目に認証を受けています。このISO14001の取り組みにおいては、廃棄物の削減活動の一環として生ごみ処理装置を導入し、社員食堂から出る生ごみを堆肥化して近隣の農家に提供、これにより生ごみゼロを達成しています。また、消費電力の削減活動は、電力モニターシステムの設置による監視活動を強化して実施しています。

一方、地域の環境活動への参画として、市内を流れる河川敷の「クリーン作戦」にも積極的に参加しています。青森といえば「ねぶた」を思い浮か

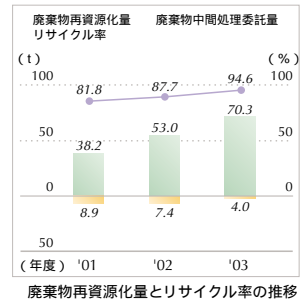
べる方も多いかと思いますが、黒石ねぶた祭りに会社として25年連続出陣し、地元の祭りの盛り上げに一役買っています。



総務グループ 石澤 宏之さん



黒石ねぶた祭り



エネルギー・廃棄物・PRTR取扱量実績データ (2003年度)

エネルギー						廃棄物					PRTR取扱量		
電力 (万kWh)	重油 (kℓ)	LPG (千㎡)	ガソリン (kℓ)	その他 (kℓ)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	トルエン (t)	エチレノキシド (t)	その他 (t)
343	128	20	1	16	1,743	4.0	0.0	0.0	70.3	94.6	0.23	2.87	0.01

● 会津オリンパス(株)

所在地: 〒965-8520 福島県会津若松市門田町大字飯寺字村西500
TEL: (0242)28-2111(代表)

事業内容: 医療用内視鏡の生産

土地面積: 63,657㎡ 建物延床面積: 27,975㎡

会津オリンパスは、1998年からゼロエミッションへの取り組みを開始しました。62種類の分別によるリサイクルのほか、廃水処理施設更新時に処理機能を追加し、メッキ処理時に発生する濃厚酸・濃厚アルカリを社内で中和処理し、産業廃棄物の削減に取り組みました。その結果、オリンパスが定めたゼロエミッション到達基準である「中間処理後の埋立量を総排出量の1%以下」を達成しました。その記事が地方誌に掲載されたことで、会津若松市の環境課より「第2回会津若松市環境大賞」の推薦を受け、事業活動における環境負荷の低減に功績があったとの評価により事業所部門での環境賞をいただきました。

また、会津若松市が毎年開催する「環境フェスタ in あいづ」に今年も参加し、当社の環境保全活

動への取り組みをパネルやカットモデルなどで紹介しました。生ごみ処理機から排出される有機肥料の無料配布コーナーや環境クイズ、ブリクラシールのプレゼントコーナーは前年同様、2003年も盛況でした。



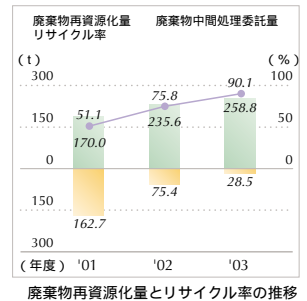
「第2回会津若松市環境大賞」賞状



「環境フェスタ in あいづ」
会津オリンパスブース



総務グループ 池田 康雄さん(左)と渡部 一晴さん(右)



エネルギー・廃棄物・PRTR取扱量実績データ (2003年度)

エネルギー						廃棄物					PRTR取扱量				
電力 (万kWh)	重油 (kℓ)	LPG (千㎡)	ガソリン (kℓ)	その他 (kℓ)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	鉛化合物 (t)	キシレン (t)	トルエン (t)	ジクロロメタン (t)	その他 (t)
1,234	729	11	5	5	6,516	21.3	4.4	2.8	258.8	90.1	2.79	3.93	6.08	0.05	10.67

● オリンパスオプトテクノロジー(株) 大町事業所

所在地: 〒398-0004 長野県大町市大字常盤字東原3798
TEL: (0261)22-6111(代表)

事業内容: 金型設計製作・MO成形・部組生産

土地面積: 17,810㎡ 建物延床面積: 7,116㎡

雄大な北アルプス連峰を目の前に、春夏秋冬、季節感豊かな自然環境に恵まれた地域に大町事業所があります。モールド成形・モールドレンズ成形・カメラのファインダー組立を主業務とし、他社業者との取引も年々増加しています。

大町事業所は「人の和」を大切に考えています。夏の納涼祭は、派遣社員もともに参加し、異国の文化も味わいながらコミュニケーションを図っています。地域社会との交流面では、社有のテニスコートの無料貸し出しのほか、全市民が同時に行う春・秋の一斉清掃にも事業場として20名ほどが参加しており、今年は会社付近の公道にて約4kgの空缶・タバコの吸殻を拾いました。

環境面では、モールド成形の電力使用とプラスチック廃材の処理が課題です。省エネタイプ成形

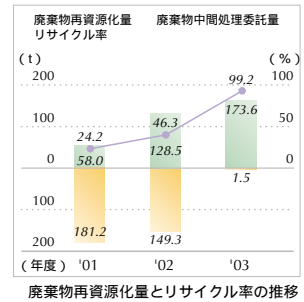
機への移行、廃材の社内再使用やサーマルリサイクル化を図っていますが、さらなる環境負荷低減に向け、事業所全員で取り組んでいきます。



品質チーム 小林 豊美さん



清掃風景



エネルギー・廃棄物・PRTR取扱量実績データ(2003年度)

エネルギー				廃棄物					PRTR取扱量					
電力 (万kWh)	LPG (千㎡)	ガソリン (㎏)	その他 (㎏)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	鉛化合物 (t)	キシレン (t)	トルエン (t)	ジクロロメタ (t)	その他 (t)
883	11	2	13	3,258	1.5	0.0	0.0	173.6	99.2	0.10	0.16	1.33	0.07	0.04

● オリンパスオプトテクノロジー(株) 坂城事業所

所在地: 〒389-0602 長野県埴科郡坂城町中之条1355
TEL: (0268)82-2361(代表)

事業内容: カメラ用レンズ、プリンタの生産

土地面積: 41,415㎡ 建物延床面積: 15,475㎡

坂城事業所では、従来の研磨レンズからガラス成形レンズへの比率が高まり、電力量の55%を消費するようになりました。研磨レンズは、コンパクトカメラからデジタル一眼レフカメラ「E-1」の大口径・高精度レンズの研磨へ転換を図っている最中です。

ゼロエミッションの活動は、2002年9月に全従業員でキックオフし、新分別や、ノーツ掲示版による環境情報の共有など、管理システムを構築しました。特にレンズ特有の研削スラッジのリサイクルにはたいへん苦労しました。今後、廃棄物すべてを循環化、廃棄物ゼロをめざし、知恵と努力で取り組んでいきます。

地域活動では、毎年、環境週間に御堂川の草刈りを実施しています。排水口の設置箇所を中心とした約500mの川筋です。6月の実施では、軽ト

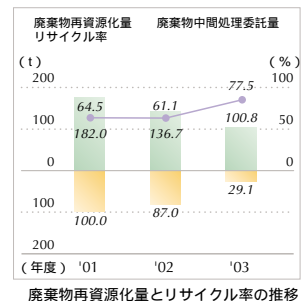
ラック10台分近くの草の量になりました。全員汗だくになって夕暮れ時に行い、地元の人々からは「官役(村)の共同作業」が楽だと喜ばれています。



レンズ技術加工チーム 本間 努さん



清掃風景



エネルギー・廃棄物・PRTR取扱量実績データ(2003年度)

エネルギー					廃棄物					PRTR取扱量				
電力 (万kWh)	重油 (㎏)	LPG (千㎡)	ガソリン (㎏)	その他 (㎏)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	キシレン (t)	トルエン (t)	ジクロロメタ (t)	その他 (t)
829	69	2	3	16	3,206	15.9	5.5	7.7	100.8	77.5	0.05	0.09	0.15	0.06

国内・海外拠点の取り組み

● 三島オリンパス(株)

所在地：〒411-0943 静岡県駿東郡長泉町下土狩128
TEL：(055)973-1311(代表)

事業内容：血液分析装置の開発・製造およびサービス

土地面積：7,066㎡ 建物延床面積：5,876㎡

環境活動を社内に定着するために、三島オリンパスで長年取り組んでいる活動を二つ紹介します。

一つは、環境事務局が毎月発行している環境ポスターです。最初の発行からすでに6年継続しており、内容は、廃棄物・電力量の削減状況から、リサイクルのしくみ・環境監査対応依頼など、幅広い内容で発行を行っています。

もう一つは、工場内外の朝清掃です。三島オリンパス操業以来、社庭の清掃を毎朝行ってきましたが、会社周辺道路への投げ捨てごみが多いため、周辺道路の清掃に着手しました。毎週月曜日から金曜日に各部署が交代で清掃を行います。朝8時前後の通勤時間帯にあたるため、交通事故の危険性も考慮しながら行っています。地域住民からの評判もよく、まったく面識のない人からも「朝

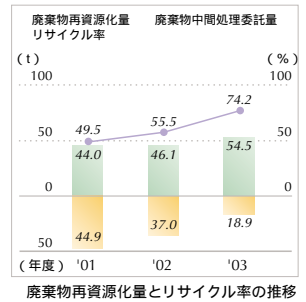
掃除を行っている会社ですか？」と声をかけられるなど、活動の定着とイメージアップに貢献していることを実感しています。



購買グループ 長谷川 要さん



清掃風景



エネルギー・廃棄物・PRTR取扱量実績データ (2003年度) PRTR対象物質は取扱なし

エネルギー			廃棄物				
電力 (万kWh)	ガソリン (kℓ)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)
102	3	369	6.6	12.3	0.0	54.5	74.2

● 白河オリンパス(株)

所在地：〒961-8061 福島県西白河郡西郷村大字小田倉字狼山3-1
TEL：(0248)27-2211(代表)

事業内容：医療用機械器具の生産

土地面積：76,550㎡ 建物延床面積：11,500㎡

白河オリンパスは「この緑豊かな環境を将来の子供たちに伝え、阿武隈山系の豊かな自然環境と調和する企業を目指し、地域との信頼関係を維持する」ことを環境方針に掲げ、活動に取り組んでいます。2003年度は、CO₂排出量の削減、ゼロエミッション認定、井水・上水使用量の削減を重点に取り組んできました。CO₂削減は、各職場・設備ごとの電力使用量を計測し、工場全体の電力状況を把握しました。今後はこれらの情報をもとに各職場・設備ごとの細かい削減計画を策定して取り組んでいきます。地域貢献では、創立25周年を迎えたことを機に「阿武隈川水源の里西郷クリーン&ウォーキング作戦」を展開し、遊歩道を歩きながらのごみ拾いと健康増進を図りました。この取り組みには従業員とその家族218名が参加

し、約80kgのごみを回収しました。また、恒例行事として開催している夏祭りではチャリティ募金を行い、西郷村へデジタル顕微鏡 MIC-D を寄贈しました。工場の施設開放では地元高校 白河高校テニス部 の要請にこたえテニスコートを開放しています。



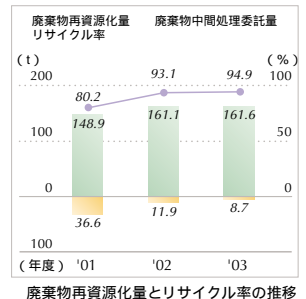
総務グループ 佐野 昭一さん



西郷村へデジタル顕微鏡「MIC-D」寄贈



阿武隈川水源の里西郷クリーン&ウォーキング作戦参加者



エネルギー・廃棄物・PRTR取扱量実績データ (2003年度)

エネルギー					廃棄物				PRTR取扱量			
電力 (万kWh)	重油 (kℓ)	LPG (千m ³)	ガソリン (kℓ)	その他 (kℓ)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	鉛化合物 (t)	エチレンオキッド (t)
324	41	4	5	1	1,308	6.2	2.5	0.04	161.6	94.9	0.89	0.34

● オリンパスロジテックス(株)

所在地: 〒 210-0856 神奈川県川崎市川崎区田辺新田1-3
TEL: (044)344-5111

事業内容: 製品倉庫及び物流業務

土地面積: 19,058㎡ 建物延床面積: 30,297㎡

創立30周年を迎えるオリンパスロジテックスは、川崎市川崎区に移転して3年目となります。川崎区はかつて、過度の工場集中により公害などの社会問題も発生しましたが、最近は国際的研究開発や基幹的広域防災・物流拠点の整備など、臨海部再開発が進んでいます。当社は産業道路沿いに所在しており、「公害の町」といわれたかつての町並みを少しでも改善したいという気持ちから、定期的に会社周辺の清掃を実施。毎週1回、昼休みに10名程度が交代で、産業道路の歩道も含めて空缶・吸殻拾いなどを行っています。また、ISO14001認証取得に向けた取り組みとして、朝礼での環境方針の読み合わせや廃棄品の分別の徹底などの実施で、従業員全員の環境に対する意識が向上しました。さらに、環境活動の一環

として、クローズドリサイクルも推進しています。社内から排出されたOA紙などを分別・回収して製紙会社で再加工し、荷物を発送する際の緩衝材として社内で使用しています。



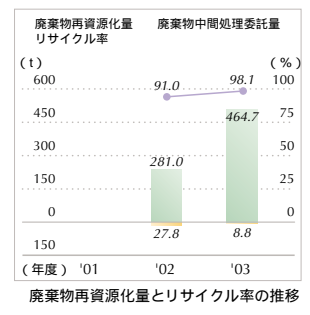
業務グループ 佐藤 章一さん



朝礼の環境方針読み合わせ



清掃風景



エネルギー・廃棄物・PRTR取扱量実績データ(2003年度) PRTR対象物質は取扱なし

エネルギー			廃棄物				
電力 (万kWh)	ガソリン (kl)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)
122	2	440	8.8	0.0	0.0	464.7	98.1

● Olympus (Shenzhen) Industrial Ltd.

所在地: 中華人民共和国廣東省深セン市南山区高新技術産業園北区
TEL: (86)755-6980118

事業内容: カメラの組立および部品加工(レンズ・モールド)

土地面積: 104,446㎡ 建物延床面積: 33,334㎡

深セン工場は、ISO14000環境管理システムの強化を図り、改善活動を展開・推進してきました。環境および作業効率の向上が評価され、2003年9月に「クリーン生産企業賞」を受賞しました。この賞はたいへん厳しい基準を満たした企業のみが受賞の対象となり、広東省では22社(深セン市からは2社)が選ばれ、そのなかで日系企業としては初受賞となりました。また、11月には深セン市より深セン市工業汚染基準全面的達成の先進企業として、「榮譽称号」をいただきました。



「クリーン生産企業」認定証

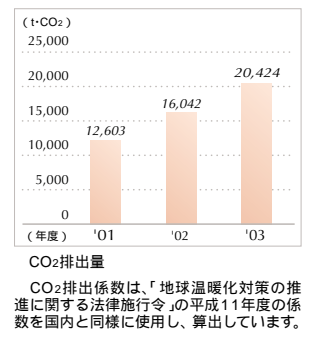


人事総務統括部 環境推進部
Ms. Luo Ying 左と Mr. Di Bao Feng 右

社会貢献活動は、12月に約200名の従業員が「第五届中国国際園林草花博覧会」という盛大な公益植樹活動に参加しました。この活動で従業員の環境意識が高まり、連帯感も深まりました。



植樹活動



エネルギー・廃棄物実績データ(2003年度)

エネルギー				廃棄物					
電力 (万kWh)	LPG (千㎡)	ガソリン (kl)	その他 (kl)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)
2,309	67	2	4,453	20,424	7.5	94.0	8.9	711.3	86.6

CO₂排出係数は、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」の平成11年度の係数を国内と同様に使用し、算出しています。

国内・海外拠点の取り組み

● Olympus Winter & Ibe GmbH (OWI)

所在地: Kuehnstr, 61, 22045 Hamburg, Germany
TEL: (49)-40-669 66-0

事業内容: 内視鏡製品の開発・生産・販売・サービス

土地面積: 13,300㎡ 建物延床面積: 11,980㎡

OWIは2001年にISO14001の認証を取得し、環境改善活動に取り組んでいます。器具包装改善の取り組みでは、“サイズと重量”の点できわめて軽量・コンパクトな包装を実現しました。これにもなっており、ポリエチレン系の包装は増加しますが、これはリサイクル可能なプラスチックです。この新しい包装はすでに全アイテムに適用されています。



旧包装のトロカール(套管針)
・ダンボール箱の寸法: 288×90×90mm、
重量: 226g



新包装のトロカール(套管針)
・ダンボール箱の寸法: 210×90×43mm、
重量: 53g
・ポリエチレン系袋の重量: 15g



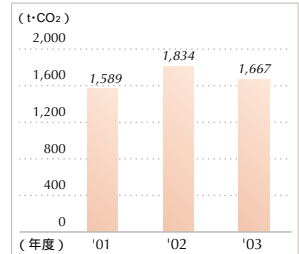
Head of Regulatory Affairs,
Mr. Bruno Soltau

新包装の目標

1. 運搬・保管時の製品保護
2. 製品の汚染防止
3. 製品包装のコンパクト化・軽量化による環境配慮
4. 運搬量・保管量の削減による環境配慮
5. ユーザーの新包装システム認証
6. 2003年度新包装システム導入

	全製品(kg)		
	旧包装	新包装	
包装(ダンボール)	22,120	18,690	-16%
包装(ポリエチレン系袋)	5,215	5,690	+9%
包装(体積)			-16%
運搬・保管量の削減量			-16%

OWI製品の売上数量に基づく包装材使用料の増減
統計データは2002年の数値をもとに出されたもので、パーセンテージの一部は推定値です。



CO₂排出量

CO₂排出係数として、各国が提示している数値を使用して算出しています。

エネルギー・廃棄物実績データ(2003年度)

エネルギー			廃棄物				
電力 (万kWh)	都市ガス (万kWh)	CO ₂ 換算 (t-CO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)
233	166	1,667	645.0	0.0	65.4	605.8	46.0

● Olympus Diagnostica GmbH [Irish Branch] (ODI)

所在地: O' Callaghan's Mills, Lismeehan,
Co. Clare, Republic of Ireland
TEL: 353 656-83-11-00

事業内容: 血液分析機用試薬の開発・生産

土地面積: 1,300,000㎡ 建物延床面積: 5,700㎡

ODIは、環境目標の一つとしていたISO14001認証を2004年1月に取得しました。数々の環境改善プログラムを実施しましたが、その事例として、排水処理施設の改良/消火貯水の検討/無害・有害廃棄物管理/化学物質リスクアセスメントと管理/取引先調査、などが挙げられます。

廃棄物削減活動では、廃棄物分別の細分化とリサイクル率の向上により、埋立廃棄量を45%削減することができました。化学物質管理では、保管庫を設置し、使用と保管の徹底を図りました。

ODIでは、環境取り組みにおいて従業員の環境教育とコミュニケーションが重要であると考えています。そこで、入社時の環境教育を徹底し、全従業員にポケットサイズの環境方針カードを配布、また環境パフォーマンスと取り組みをわかりやすく従業員

員に伝達するための環境掲示板を設置するなどの工夫をしています。その他、環境対応の手順や、廃棄物分別教育、流出事故対応訓練や化学物質教育、緊急模擬訓練等も実施しています。ODIはこれからも環境標準を改善し、環境と調和しながら邁進していきます。



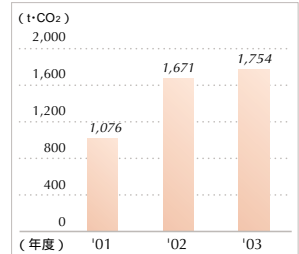
環境掲示板



保存している石器時代の埋葬地
地域との環境コミュニケーション: 建物増築工事の着工前に近隣住民と話し合いをもち、建物周辺の木々と近隣の石器時代の埋葬地を保存、環境に悪影響を与えず事業場を拡張することを約束しました



Human Resource Manager,
Mr. Liam McGregor



CO₂排出量

CO₂排出係数として、各国が提示している数値を使用して算出しています。

エネルギー・廃棄物実績データ(2003年度)

エネルギー			廃棄物			
電力 (万kWh)	重油 (kℓ)	CO ₂ 換算 (t-CO ₂)	一般廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)
205	59	1,754	54.3	296.9	58.8	14.3

KeyMed (Medical & Industrial Equipment) Limited

所在地: KeyMed House, Stock Road, Southend-on-Sea, Essex SS2 5QH United Kingdom
TEL: (44)01702-616333

事業内容: 内視鏡製品の販売・修理および開発・生産

土地面積: 30,000㎡ 建物延床面積: 15,000㎡

KeyMedでは、2003年、スカールレット・ハート小学校より依頼を受け、地域貢献の一環として校庭の一角に野生生物園の設置支援・資金提供を行いました。2003年3月に植樹が完成しましたが、夏には不幸にも生徒の一人ががんで亡くなり、学校側が彼にちなんでその生物園を“ハリーの庭”と名づけました。

2003年度の環境取り組みは、特に電子部品廃棄物、ブラウン管、木材の分別回収に大きな改善がありました。ごく最近までこれらの廃棄物は、排出量が少ないため分別回収処理業者が見つかりませんでしたが、それでもなお粘り強く業者を探し、現在は電子部品廃棄物、ブラウン管、木材は別々に回収されるようになりました。電子部品廃棄物は貴金属とその他の廃棄物に回収され、ブラウン管

は分解後、部品を回収できる最新設備の整ったベルギーへ引き取られます。木材は破碎後、厨房用家具に利用されています。こういった新しい分別回収方法導入による改善はもとより、ダンボールなど他の廃棄物分別においても大きな成果がありました。



ハリーの庭



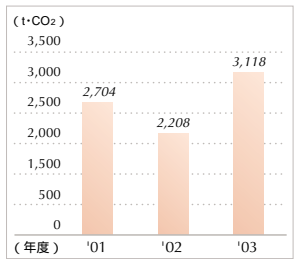
電子部品廃棄物



木材廃棄物



Regulatory & Environmental Affairs Manager, Mr. Andrew J. Vaughan



CO₂排出係数として、各国が提示している数値を使用して算出しています。

エネルギー・廃棄物実績データ(2003年度)

エネルギー			廃棄物				
電力 (万kWh)	都市ガス (万kWh)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)
478	559	3,118	429.4	7.8	0.0	659.6	60.1

Olympus America Inc.(OAI)

所在地: [本社] 2 Corporate Center Drive, Melville, NY 11747-3157, U.S.A. TEL: (1)631-844-5925
[San Jose ナショナル・サービス・センター] 2400 Ringwood Ave. San Jose, CA 95131-1700, U.S.A. TEL: (1)408-935-5018

事業内容: 工業内視鏡を除く全分野製品の販売・マーケティング(本社)
医療機器の修理・サービス受付・配送センター(San Jose ナショナル・サービス・センター)

[本社] 土地面積: 1,700㎡ 建物延床面積: 24,247㎡
[San Jose ナショナル・サービス・センター] 土地面積: 24,690㎡ 建物延床面積: 7,500㎡

2003年度、OAI本社はオリンパス社内エコフォーラムに初めて参加し、OAIの環境活動を報告しました。その報告会で、アメリカの環境関連連邦法・州法・地域法について、オリンパス国内・海外生産拠点と情報を共有し、コミュニケーションを強化しました。省資源推進・廃棄物削減活動では、販売店で900件以上、消費者から数千件、総計6万6千件以上の発注を電子化し、紙の使用量を大幅に削減。Hauppauge 物流センターでは、製品出荷時に発生する発泡スチロールの梱包材を、45%削減しました。

San Jose ナショナル・サービス・センターでは、ポリエチレン製の発泡剤や電子部品廃棄物、プリンタのトナーカートリッジ、ブラウン管などをリサイクルするため回収しています。省エネルギー活動では、

長寿命蛍光灯や感知センサーライトの使用を推進しています。有害廃棄物に関しては、法規定にしたがい、特定場所に保管し適切に管理しています。



電子部品廃棄物



ポリエチレン製の発泡剤



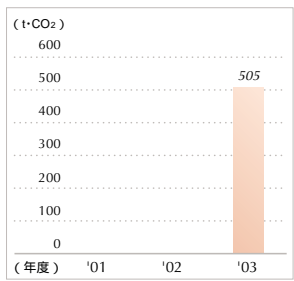
プリンタカートリッジ



Chief Compliance Officer, Mr. Timothy D. Sullivan



Environmental Health, Safety & Facility Manager, Mr. Pad Kemmanahalli



CO₂排出係数として、各国が提示している数値を使用して算出しています。

エネルギー・廃棄物実績データ(2003年度)

エネルギー			廃棄物				
電力 (万kWh)	都市ガス (Therm)	CO ₂ 換算 (tCO ₂)	一般廃棄物 (t)	産業廃棄物 (t)	特別産廃物 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)
169	20,482	505	424.4	4.9	0.1	470.8	52.3

外部からの表彰

● KeyMed(Medical & Industrial Equipment)Limited, 英国女王賞Sustainable Development部門賞を受賞

2004年4月21日、英国首相の推薦を受け、女王陛下の承認のもと、KeyMedは英国女王賞のSustainable Development 部門賞を受賞しました。この賞は、優れた事業業績と先進的雇用政策により、経営効率が向上した企業にのみ与えられる、英国ではビジネスにおいてもっとも栄誉ある賞です。

英国女王賞事務局からは、「KeyMedは、従業員の教育やモチベーション向上、地域貢献、環境負荷の低減といった取り組みを通じて、ビジネスにおける持続可能な発展を実現しました。また、従業員の安全衛生や、障害者が働きやすい設備の推進、従業員の職場での自己実現などを積極的に支援しました。さらに、地元の学校への施設の開放、数多くのチャリティ活動への貢献、地域社会発展プロジェクトへの積極的な参加、役員レベルでのCO2削減に関するコミットメントなど、広範囲な環境取り組みを推進しました」と発表されました。

Michael Woodford 社長 (MBE^{※1)})は、「ビジネスにおいてもっとも栄えあるこの賞を受賞し、英国の優良企業に仲間入りできたことを、たいへん誇りに思います。KeyMedの核となる企業文化と理念が、このような形で認められたことは、たいへん素晴らしいことです」とコメントしています。

※1) MBE: Members of the Order of British Empire, 名誉大英勳章第5位。



「英国女王賞」ロゴマーク

● Olympus (Shenzhen)Industrial Ltd., クリーン生産企業賞を受賞

2003年9月、オリンパス深センは、日系企業では初めてとなる「クリーン生産企業賞」を受賞しました。同賞は広東省の政府から授与されたもので、クリーン生産実施内容の報告、組織や教育、法律で決められたクリーン活動内容の実施状況、会社全体でのクリーン生産のイメージ、排気・廃水・廃棄物の指標が法基準を満たしているかどうかなど、たいへん厳しい基準をクリアした企業にのみ与えられる賞です。オリンパス深センでは、省エネ、生活廃水・樹脂材料のリサイクル、廃棄物の削減に重点を置いて取り組んできましたが、なかでも先端技術を活用した廃棄物のリサイクルが特に高く評価され、受賞につながりました。



「クリーン生産企業賞」受賞式

● オリンパスロジテックス(株) 第20回日本ロジスティクス大賞を受賞

オリンパスロジテックスは、物流業界でもっとも権威のある2003年度(第20回)「日本ロジスティクス大賞」を受賞しました。拠点統合による国内物流拠点の最適化の実現や、顧客納入リードタイム短縮、在庫圧縮、物流コスト削減といった改革に加え、環境面においても、倉庫間輸送の解消やモーダルシフトの導入によるCO2削減といった取り組みが高く評価されました。オリンパスロジテックス田畑社長は「オリンパス全体でみると、まだまだ改善の余地があります。今後は調達物流なども手がけ、よりいっそうグループの事業に貢献していきたいです」と意気込みを語りました。



記念の盾を手に高木担当役員(左)と
オリンパスロジテックス田畑社長(右)

編集後記



1年間の環境取り組みを振り返りながら、環境レポートを作成してきました。今回は、「国内・海外拠点の取り組み」として各拠点のサイトレポートを掲載しました。このサイトレポートは、地域の方々にもぜひお読みいただきたいと思っております。「人事制度と育成」は新しく追加した報告です。環境配慮型製品についても多くの記述を行いました。メーカーとしての新しい価値創造への取り組みです。また、全社環境推進機能のISO14001認

証取得により、経営トップによる環境推進マネジメントが明確でわかりやすいものとなりました。

オリンパスグループでは、今後も持続可能な社会の実現に向けて継続的な改善に取り組んでまいります。忌憚のないご意見やご助言、感想などをお寄せいただければ幸いです。

環境推進部長 恒藤克彦

表紙写真撮影：動物写真家 岩合光昭(いわごう みつあき)
1950年東京生まれ。地球上のほとんどの地域へ自らおもむき、大自然や動物を被写体とした臨場感あふれる写真を多く発表。その作品は世界的に高く評価されている。

表紙写真：南極、キングジョージ島
南極半島の先端、サウスシェットランド諸島最大の島で、9カ国の南極観測基地がこの島に集中している。海水や棚氷が減少しつつあるほか、ペンギンなど固有種の個体数が減り、従来見られなかった植物が出現するなど、南極は、地球の気候変動の影響をもっとも敏感に映し出す地域である。



オリンパス環境活動のあゆみ

● オリンパスグループの環境活動の歴史

年	月	主な活動
1975年	3月	公害防止委員会設立
1976年	6月	各事業場で環境週間行事を開催 WWF(現・世界自然保護基金)への支援(カレンダー提供等)開始
1970年代後半		公害防止、廃棄物処理、薬品管理等に関する全社横断的な基準・規定類の整備が進む
1984年	4月	公害防止診断開始(以後1996年まで実施)
1980年代後半		全事業場が年間環境保全活動を毎年「環境白書」としてまとめ、環境担当役員に提出することが定着
1992年	1月	環境保全推進室(全社環境統括部門)設立
	8月	オリンパス環境憲章制定
1993年	7月	特定フロン、1,1,1-トリクロロエタンの使用全廃
1994年	12月	小型カメラ包装用の発泡スチロール使用全廃
1995年	7月	天竜川美化・愛護の推進に関する表敬(建設省中部地方建設局)
1996年	3月	「96 全社環境保全基本計画」設定
	6月	全社環境管理マニュアル制定
1997年	2月	伊那事業場がオリンパスグループ初のISO14001認証取得 製品環境アセスメントの運用開始
1998年	6月	1997年度分PRTRをまとめ、公表
	10月	辰野事業場が「平成10年度緑化優良工場日本緑化センター会長賞」受賞
1999年	2月	辰野および伊那事業場が「平成10年度エネルギー管理功績者(中部通商産業局)」を受賞
	7月	「99 全社環境基本計画」設定
	9月	深セン工場(中国・深セン市)がISO14001認証取得
2000年	2月	日の出工場が「電気使用合理化活動最優秀賞」を受賞(関東地区電気使用合理化委員会)
	3月	技術開発センター(八王子)がISO14001認証を取得し、国内の主要事業場12事業場が認証取得完了
	10月	グリーン調達ガイドラインを導入し、部品調達先の調査終了 業務用商品の購入ガイドライン策定
2001年	2月	日の出工場が「電気使用合理化活動最優秀賞」を連続受賞
	3月	洗浄工程でのトリクロロエチレン削減が進む 辰野事業場が生ごみ処理機導入
	5月	Olympus Winter & Ibe 社がISO14001認証取得
	6月	技術開発センター(八王子)が発酵型生ごみ処理機導入
	8月	物流拠点のオリンパスロジテックス東京センターが稼働開始
2002年	3月	KeyMed (Medical & Industrial Equipment) Limited 社がISO14001認証取得 技術開発センター(八王子)のリサイクルセンター稼働開始 「02 全社環境基本計画(呼称「エコロジービジョン21」)」設定
	4月	環境推進部設立 環境委員会組織の整備(全社環境委員会・事業場責任者会議等) 土壌・地下水を中心とする環境サイトアセスメントを開始(国内生産サイト対象)
	9月	社内エコフォーラム開催開始
2003年	2月	伊那事業場が「資源エネルギー庁長官賞」受賞
	9月	国内主要5開発及び生産拠点でゼロエミッション達成 オリンパス深センが「クリーン生産企業賞」を受賞
	10月	オリンパスロジテックスが社団法人日本ロジスティクスシステム協会から2003年度(第20回)「ロジスティクス大賞」を受賞
	11月	オリンパスロジテックスがISO14001認証取得
	12月	「エコプロダクツ2003」に出展 環境配慮製品の社内認定制度運用を開始し、実体顕微鏡「SZX7/SZ61」とデジタル一眼レフカメラ「E-1」を 「オリンパスエコプロダクツ」として認定 「E-1」が、デジタル一眼レフカメラとして初のエコライフ環境ラベルを取得
2004年	1月	全社環境推進機能のISO14001認証取得 Olympus Diagnostica GmbH(Irish Branch)がISO14001認証取得
	3月	国内全主要事業場のゼロエミッション達成 販売子会社KSオリンパスがISO14001認証取得



Smile for the Earth

人と地球の環境調和のために。

OLYMPUS[®]

オリンパス株式会社

お問い合わせ先

環境推進部

〒192-8512

東京都八王子市久保山町2-3

TEL:0426-91-7288 FAX:0426-91-7291

E-mail: environ@ot.olympus.co.jp

オリンパスホームページ

<http://www.olympus.co.jp/>

TREE FREE



この報告書は、竹パルプ100%の非木材紙「タケバルキーGA」に
水なし印刷で、大豆油インキを用いて印刷されています。

発行2004年6月

次回発行予定2005年6月

X04KJ-0604T Printed in Japan